

2022年度 常磐大学 人間科学部 コミュニケーション学科 履修系統図(図形式)【ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーと各授業科目の対応関係】

建学の精神

実学を重んじ真摯な態度を身につけた人間を育てる。

教育理念

自立・創造・真摯

学科の教育研究上の目的

(1)社会の中で豊かな人間関係を築く能力(ヒューマン・リテラシー)および最新の情報環境のもとで情報を活用し創造する能力(ICTリテラシー)、ならびに国際化する社会で活躍できる英語コミュニケーション能力を備えた人材を養成する。  
(2)人間関係および社会の成立に不可欠なコミュニケーション、多様な文化や考え方、英語の構造、国際コミュニケーション手段としての英語について、科学的に探求するための教育研究を行う。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (教育課程編成・実施の方針、カリキュラム・ポリシー)	授業科目				卒業の認定に関する方針 (卒業認定・学位授与の方針、ディプロマ・ポリシー)	学士の学位授与	
(1)編成方針 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)で掲げた人材養成の目的を達成するために、情報社会、国際社会におけるコミュニケーションの過程をコミュニケーション学に基づいて分析し、そこから得られた知見を現実社会で活用できる人材を育成するためのカリキュラムを体系的に編成します。	1年次	2年次	3年次	4年次	コミュニケーション学は、人間や組織が考え感じたことを伝える側面と、受け取る側面とを分析的に探求する社会心理学、言語学、社会学などの学問領域と、人が表現したい内容を的確に表現する構想力とそれを支えるグラフィック技術、映像技術、プログラミング技術を探求する学問領域とが交差するところに成立しています。また、多様な文化や考え方、英語の構造、国際コミュニケーション手段としての英語を科学的に探求する学問領域では、言葉の背景にある文化や歴史を理解し、幅広い教養と国際感覚に裏付けされた英語コミュニケーション能力を身につけることができるようになっています。在学中に修得した知識・技術を用いて、情報社会、国際社会の一員としての自分の立場や考え方を認識し、コミュニケーションに対して学問的な幅広い観点から考える態度を身につけ、得た情報を批判的に読み解き、自分の考えを説明することができる人材を養成します。		
1. 学部基本科目では、大学で学ぶための基本的知識と態度、技能を身につけるための教育を行います。	学びの技法 I 学びの技法 II 統計の基礎 情報処理 I 情報処理 II キャリア形成と大学 社会調査入門 英語 I、II、III、IV	英語IV 英語VI	人間科学概論		1.情報社会におけるメディアとコミュニケーション、国際社会における外国の人々とのコミュニケーション現象に幅広く関心をもつことができる。(知識・理解、態度)		
2. 学科基本科目では、まずはコミュニケーション学の基礎的な内容を身につけるために1年次配当科目を置きます。さらにコミュニケーション学の多様な研究領域を紹介することで、3年生以降の研究分野を学生自らが考えるために2年次配当科目を置きます。これらの授業を通して、コミュニケーション学に関する体系的かつ広範な専門知識や研究方法を身につけるための教育を行います。	コミュニケーション学入門	多文化共生論 コミュニケーション研究 法 メディアリテラシー論			2.日常生活の中で出会う情報を批判的に読み解き、多面的に判断することができる。(思考・判断、技能)		
3. コミュニケーション研究の基礎では、まずは学問としての対人関係やメディアに関わる基本的知識を身につけるための概論科目として1年次配当科目を置きます。さらに、より専門的な知識を身につけるための各論科目として2年次配当科目を置きます。最後に、学生自らが研究する方法を身につけるために3年次配当科目を置きます。これらの授業を通して、対人関係やメディアの観点からコミュニケーションの理解を深めるための教育を行います。	社会心理学 I マス・コミュニケーション論	社会心理学 II ソーシャルメディア論 社会言語学概論 コミュニケーション研究史 異文化間コミュニケーション コミュニケーション演習	コミュニケーション実習 (通年)		3.科学的な知見を基礎とした他者との円滑なコミュニケーションによって、家庭にあっても、地域社会にあっても、企業にあっても、情報化、国際化する社会の中で一定の役割を果たすことができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)		
4. 文化の表現と発信では、まずは情報発信の基本となるデザインに関する基礎的な知識と技術を身につけるために1年次配当科目を置きます。さらに高度な情報発信が行えるような専門的な知識と技術を身につけるために2年次配当科目を置きます。最後に今まで学んだ知識と技術を用いたコンテンツを作成し、学生自らが情報発信を行うために3年次配当科目を置きます。これらの科目を通して、メディアを介した文化交流を実現するための情報発信に重点を置いた教育を行います。	メディア表現基礎 デザイン概論	映像演習 ウェブデザイン論 グラフィックデザイン演習 プログラミング演習 大衆文化論 地域文化資源と観光	ウェブデザイン演習 文化デザイン演習 I 文化デザイン演習 II		4.自分の卒業研究・卒業制作についてコミュニケーション学の観点から説明することができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)		
5. 文化交流と言語コミュニケーションでは、まずは言葉による円滑なコミュニケーション技能や異文化理解に必要な知識や技能を身につけるために1年次配当科目を置きます。さらに国際感覚と日本語教育に関わる知識と技術を身につけるために2年次配当科目を置きます。最後に幅広い教養や日本語教師になるために必要な知識と技術を身につけるために3年次配当科目を置きます。これらの科目を通して、文化交流を実践するための言語運用能力の強化に重点を置いた教育を行います。	異文化理解 日本語教育学概論	言語学概論 英語コミュニケーション演習 I アメリカ文化研究 イギリス文化研究 "Discussing Current Issues" 日本語教授法 AIと言語 英語コミュニケーション演習 II "Speaking for International Communication" 国際法 国際政治	日本語教育実習(通年) 地域研究入門 地域研究(アジア) I 地域研究(アジア) II 地域研究(アメリカ) I 地域研究(アメリカ) II 地域研究(ヨーロッパ) I 地域研究(ヨーロッパ) II 国際社会学				
6. 英語と英語教育では、まずは英語圏での文化や歴史に関する知識を学ぶために1年次配当科目を置きます。さらに言語としての英語や実践的な英語コミュニケーション能力を養成するために2年次配当科目を置きます。これらの科目を通して、実践的な英語コミュニケーション能力の養成に重点を置いた教育を行います。	アメリカ文学 英語表現演習 I 英語文学 イギリス文学 英語表現演習 II 英語学	英語表現演習 III 英語科教育法 I 英語科教育法 II 英語表現演習 IV 英語科教育法 III 英語科教育法 IV 観光外国語					
7. 卒業研究では、コミュニケーションを様々な視点から研究できるように、専門性の異なる教員のもとで少人数形式を取り入れた教育を行います。(1)から(6)で挙げた教育の内容をさらに専門的にした「ゼミナール I・II」、そして「卒業論文 I・II」では4年間の学修成果を論文または作品としてまとめるための教育を行います。			ゼミナール I ゼミナール II	卒業論文 I 卒業論文 II			

(2) 実施方針

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)			
											1.人文科学、社会科学、自然科学の諸領域にわたる広く深い教養と基礎的な知識を身につけ、各学科の専門性および人間科学の枠組みで総合的に理解している。(知識・理解)	2.人間に関わる諸問題、とりわけ、心理や行動の発達、教育、社会や福祉、コミュニケーション、健康と栄養に関わる諸問題を発見し、批判的に考え、多面的な思考と分析による的確な判断を下すことができる。(思考・判断)	3.人間科学に基づく高い倫理観を持ち、自らの社会的責任を理解し、自らが率先して行動する態度を身につけている。(態度)	4.各学科の専門性に基づく高度な専門的知識と応用・実践能力を修得し、課題解決のための具体的方策を提示し、これを実行できる技能を身につけており、それによって社会に貢献することができる。(知識・理解、思考・判断、技能)
学部共通科目	HMS-101	社会調査入門	講義	2	1		○		広い視野から人間や人間社会に関する理解の基礎を修得するためのひとつの科目として、社会調査入門が位置づけられている(カリキュラム・ポリシー①)。この授業では、人間社会を実証的に研究するための方法としての社会調査法の基礎を学ぶ。前半部分では、社会調査とは何か、その意義、問いをたて調査を実施するまでのプロセスについて学ぶ。後半部分では、社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を学ぶ。	(1) 社会調査の基礎用語を理解し、調査の流れを説明できる(知識・理解)。 (2) 調査倫理を遵守する態度を有している(態度)。 (3) 調査を設計し、実施する際の留意点を説明できる(知識・理解)。	●		◎	
	HMS-201	人間科学概論	講義	2	3		○		広い視野から人間や人間社会に関する理解の基礎を修得するための科目である(カリキュラム・ポリシー①)。「人間」とは何か、という根本問題を探究している諸学問研究の成果を、学部3年次において再度とらえなおし、「人間科学」の形成過程とその学問的位置づけを考察する。また、履修学生相互の学びを通して、「人間観」「人間と科学技術」「人間集団」等をめぐる理解を深める。	(1) 「人間性」を主題とする諸学問分野の理解に基づき、人間科学の学問的位置づけを説明できる(知識・理解)。 (2) 異なる「人間像」を偏りなく理解し、説明できる(知識・理解)。 (3) 人間や人間社会に関する課題について、多面的に考えようとする態度を有している(態度)。	●		◎	

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位選択	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)				
												1.情報社会におけるメディアとコミュニケーション、国際社会における外国人の人々とのコミュニケーション現象に幅広く関心をもつことができる。(知識・理解、態度)	2.日常生活の中で出会う情報を批判的に読み解き、多面的に判断することができる。(思考・判断、技能)	3.科学的な知見を基礎とした他者との円滑なコミュニケーションによって、家庭にあっては、地域社会にあっては、企業にあっては、情報化、国際化する社会の中で一定の役割を果たすことができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)	4.自分の卒業研究・卒業制作についてコミュニケーション学の観点から説明することができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)	
学科基本科目		コミュニケーション学入門	講義	2		1		○		この授業は、コミュニケーションの基礎概念を理解した上で、対人、組織、スピーチ、メディア、異文化といった様々なコミュニケーションに関する基礎知識を習得し、そのプロセスに関わる諸要因を推定し、学際的な視点から分析できることを目的とします。CPにおける実施方針のうち、コミュニケーションには多様な側面があること、その複雑さを理解することを目的とします(実施方針2)。	(1)コミュニケーションの各類型を列記し、具体例を示すことができる。 (2)コミュニケーションに関わる基礎的用語を定義できる。 (3)各類型のコミュニケーションの構成要素を推定し、プロセスを説明できる。	●	◎			
		多文化共生論	講義	2		2		○		本科目では、「差別問題」について検討することで、異文化間コミュニケーションの前提条件である「他者への理解」を深めていく。また、本科目では、文献講読に基づく個別報告およびディスカッションを行う中で、受講者のコミュニケーション能力及び学力の向上を目指していく。これらの活動は、本学カリキュラム・ポリシーの「幅広い視点から物事を判断する知識の修得」に該当する(実施方針1)。また、文献講読および個別報告は、ゼミナール・卒業論文において求められる必須の能力であり、人間科学部のカリキュラム・ポリシー④にも対応している。学科CPにおける実施方針の内、「異文化理解に必要な知識の習得、幅広い教養と国際感覚」の習得を目指す(実施方針2)。	(1)「多文化主義」の歴史的推移と変遷について理解できる。 (2)「共生社会」の実現に向けて自分自身の見解を述べられるようになる。 (3)日常の中で「多様性」について関心を持つことができるようになる。	●		◎		
	CO-M-253	メディアリテラシー論	講義	2		2		○		我々の生活においてメディアを用いたコミュニケーションの比率が高まっています。そこで、求められるのが「メディア・リテラシー」です。近年は、従来の「メディアを読み解く能力」に加え「メディアで表現する能力」なども含む多義的な概念となっています。本講義では、メディア・リテラシーに関する諸研究を概観して、情報社会に生きるメディアと上手く付き合う力の涵養を目指します。CPにおける実施方針のうち、コミュニケーションの多様な側面の1つであるメディアを介したコミュニケーションの影響、その複雑さを理解した上で、クリティカルに読み解く能力の涵養を目指します(実施方針2)。	(1)メディア・リテラシーに関わる概念を記述できる。 (2)マス・メディアのコンテンツおよび影響力をクリティカルに読み解くことができる。 (3)ソーシャルメディアのコンテンツおよび影響力をクリティカルに読み解くことができる。	●	◎			
		コミュニケーション研究法	講義	2		2		○		コミュニケーションを研究するにあたり、必要となる基礎知識の涵養を目指します。先行研究の探し方に始まり、送り手分析、内容分析、メディア分析、受け手分析、効果分析の基礎を学びます。それぞれについて、量的な研究、あるいは質的な研究の視点から概説します。その上で、簡易な分析演習を行います。CPにおける実施方針のうち、コミュニケーションには多様な側面があること、その複雑さを理解するための様々な分析手法を理解することを目的とします(実施方針2)。	(1)コミュニケーション研究の先行研究を検索できる。 (2)コミュニケーション研究の主な手法を列記し、説明できる。 (3)研究手法と卒業研究計画とを関連づけることができる。	●	◎			○
コミュニケーション研究の基礎		マス・コミュニケーション論	講義	2		1		○		コミュニケーションという社会現象のうち、マス・コミュニケーションを分析する能力の涵養を目的とします。コミュニケーションの1類型としてのマス・コミュニケーションについて理解を深めるために、(1)マス・コミュニケーションの送り手、(2)受け手、そして(3)影響という視点から、主要な研究について概説します。CPにおける実施方針のうち、メディアに関する理解を深めるための科目であり、特にマス・メディア産業の現状、受け手研究、効果研究など視点から理解を深めます(実施方針3)。	(1)マス・コミュニケーションに関わる専門用語を列記し説明できる。 (2)マス・コミュニケーションの受け手分析ができる。 (3)マス・コミュニケーションの効果分析ができる	◎	●			
		ソーシャルメディア論	講義		△2	2		○		コミュニケーションという社会現象のうち、特にソーシャルメディアを介したコミュニケーションを分析する能力の涵養を目的とします。その目的の達成のために、(1)その前史としてのCMC研究やデジタルディバイドなどの諸問題、(2)ソーシャルメディアをめぐる現代的諸問題について概説します。CPにおける実施方針のうち、メディアに関する理解を深めるための科目であり、特にソーシャルメディアに関する諸問題(炎上、フェイクニュースなど)をコミュニケーション学の視点から理解を深めます(実施方針3)。	(1)ソーシャルメディアを介したコミュニケーションに関わる専門用語を列記し、説明できる。 (2)ソーシャルメディアを介したコミュニケーションのプロセスが説明できる。 (3)ソーシャルメディアを介したコミュニケーションの諸問題を例示し、理論的に説明できる。	◎	●			
		社会心理学Ⅰ	講義		△2	1		○		本授業では社会心理学領域の基礎的な知見と、近年注目を集めるようになった知見の両方を学びます。前者の知見としては社会的影響・社会的認知アプローチ・対人認知・対人行動・態度・自己と他者・社会的推論、後者の知見として感情・意識・自動性を主に取り上げます。本授業の内容は、CPにおける実施方針のうち、コミュニケーションに関わる知識と技能を身に付けるための科目であり、具体的には社会心理学を通じて対人関係についての理解を深めることに重点を置きます(実施方針3)。	(1)授業で扱ったコミュニケーション現象に関する概念を、日常生活での具体的な事例と併せて理解できる。 (2)授業で紹介される実験や調査の結果が、何を表わしているかを理解できる。 (3)授業内容について自分の言葉で説明できる。	◎	●			
コミュニケーション研究の基礎		社会心理学Ⅱ	講義		2	2		○		本授業では、社会心理学領域における「他者」に焦点を当てた研究から得られた知見について学びます。コミュニケーションは、自己と他者によって成り立つものです。この授業では「自己」に加え、特に「対人認知」と「対人関係」について、社会心理学領域でどのような問題が、どのような手法で研究されているのかを学ぶことを通じて、対人関係にまつわる諸問題にアプローチします。本授業の内容は、CPにおける実施方針のうち、コミュニケーションに関わる知識と技能を身に付けるための科目であり、具体的には社会心理学を通じて対人関係についての理解を深めることに重点を置きます(実施方針3)。	(1)授業で扱ったコミュニケーション現象に関する概念を、日常生活での具体的な事例と併せて理解できる。 (2)授業で紹介される実験や調査の結果が、何を表わしているかを理解できる。 (3)授業内容について自分の言葉で説明できる。	◎	●			
		コミュニケーション研究史	講義		2	2		○		コミュニケーションという社会現象が研究の対象となり、コミュニケーション学の成立に重要な役割を果たした先駆者(シュラム、ラスウエル、ラザースフェルド、レヴィン、ホブランド等)の経歴や研究等を紹介し、その上で、コミュニケーション学がいついかなる過程を経て形成され、学部(学科)として設置されるに至ったかを説明します。CPにおける実施方針のうち、メディア、対人関係、異文化に関する理解を深めるための科目であり、特にコミュニケーション研究の歴史という視点から概説します(実施方針3)。	(1)コミュニケーション学の主だった先駆者の研究業績について説明できる。 (2)コミュニケーション学成立の歴史について概説できる。 (3)コミュニケーション学の定義を、自分なりにまとめられる。		●			
	GLO-243	異文化間コミュニケーション	講義		2	2		○		他者への理解と「差別」本科目では、「差別問題」について検討することで、異文化間コミュニケーションの前提条件である「他者への理解」を深めていく。また、本科目では、文献講読に基づく個別報告およびディスカッションを行う中で、受講者のコミュニケーション能力及び学力の向上を目指していく。これらの活動は、本学カリキュラム・ポリシーの「幅広い視点から物事を判断する知識の修得」に該当する(実施方針1)。また、文献講読および個別報告は、ゼミナール・卒業論文において求められる必須の能力であり、人間科学部のカリキュラム・ポリシー④にも対応している。学科CPにおける実施方針の内、「異文化理解に必要な知識の習得、幅広い教養と国際感覚」の習得を目指す(実施方針3)。	(1)人間に関わる諸問題としての「差別」について理解できるようになる。 (2)専門書を適切に読み解くことができるようになる。 (3)文献を通じて学んだ内容を相手に説明できるようになる。	◎				●

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位選択	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連			
												1.情報社会におけるメディアとコミュニケーション、国際社会における外国の人々とのコミュニケーション現象に幅広く関心をもつことができる。(知識・理解、態度)	2.日常生活の中で出会う情報を批判的に読み解き、多面的に判断することができる。(思考・判断、技能)	3.科学的な知見を基礎とした他者との円滑なコミュニケーションによって、家庭にあっても、地域社会にあっても、企業にあっても、情報化、国際化する社会の中で一定の役割を果たすことができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)	4.自分の卒業研究・卒業制作についてコミュニケーション学の観点から説明することができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)
文化の表現と発信	GLO-213	社会言語学概論	講義	2	2	○				「言語としての英語についての知識」と「言語教育学・外国語教育学についての知識」を学習し応用するための基礎としての社会言語学の基本的な知識を学ぶ。具体的には、言語の変種とは何か、言語を選択するとはどのようなことか、談話レベルに於ける社会言語学的トピック、言語と社会・文化に関わる社会言語学的トピック、会話とコミュニケーションに関わる社会言語学的トピックを扱う。取り上げるトピックは、言語、社会・文化を問わず一般的なものであるが、具体例としては英語と日本語、英語を母語または第1言語とする社会と日本社会からの例を中心に取り上げる。この科目は学科のCPにおける実施方針のうち、メディア、対人関係、異文化についての理解を深めることに重点をおいた授業を展開します(実施方針3)。この授業は日本語教育の勉強にも役立ちます。	(1)言語の変種および言語の選択という概念とその具体例について理解している。 (2)談話レベルという概念と談話レベルに於ける具体的な社会言語学的トピックについて理解している。 (3)言語と社会・文化の関係について、および会話とコミュニケーションの基本的理論と、言語と社会・文化、会話、コミュニケーションに関わる具体的な社会言語学的トピックについて理解している。 (4)①から③について、英語と日本語、英語を母語または第1言語とする社会・文化と日本社会からの具体例を用いて理解し、かつ、説明することができる。	◎	●		○
		コミュニケーション演習	演習	2	2	○				データ解析にまつわる知識は、コミュニケーションおよび人間心理の探究においてデータを収集する際や、先行研究の結果を適切に理解する際に必要不可欠です。本授業では、データを適切に扱い、解析して解釈できるように、データ解析に関する基礎的知識を学ばせます。具体的には、データ解析に関する基礎的知識に関する講義に加え、データ解析の際に広く用いられている統計ソフトウェアを用いた実習を行います。本授業の内容は、CPにおける実施方針のうち、コミュニケーションに関わる知識と技能を身に付けるための科目であり、具体的にはデータを分析する方法を学び、実践することを通じて対人関係についての理解を深めることに重点を置きます(実施方針3)。	(1)目的に沿った統計手法を選択してデータを分析し、得られた結果を適切に解釈できる。 (2)データ解析に関する基礎的知識を理解できる。 (3)統計ソフトウェアの基本的な使用方法を理解できる。		●	○	
		コミュニケーション実習	実習	2	3	○				社会現象としてのコミュニケーションを研究するにあたり必要とされる手法を習得するための実習を行います。CPにおける実施方針のうち、コミュニケーションには多様な側面があること、その複雑さを理解するための様々な分析手法を習得することを目的とします(実施方針3)。	(1)コミュニケーション研究に用いる素材(映像など)を作成できる。 (2)質的・量的コミュニケーション研究の手法を用いてデータを分析できる。 (3)分析結果をレポートにまとめることができる。	◎	●		○
		デザイン概論	講義	2	1	○				この科目ではCPにおける実施方針のうち、文化の表現と発信を行っていく上で必要となる色彩学やユニバーサルデザイン、レイアウトのルールといった理論を学びます(実施方針4)。視覚に関する知覚や認知の仕組みを知ることでグラフィックデザイン・ウェブデザインに関する構想力と技術力を養い、今後制作していく表現のクオリティアップを目指します。	(1)色に関する理論体系を理解し、制作時に応用することができる。 (2)デザインの概念、留意すべき点を理解し、表現したい内容に対し、的確に工程を組み立て制作することができる。 (3)色彩検定3級相当の色に関する知識を有し、説明することができる。	◎		●	
		大衆文化論	講義	2	2	○				この科目では現在の日本の大衆文化を形作っているコンテンツと、水戸の地域文化を形作っているコンテンツを横断的におさえていくことで、CPにおける実施方針のうち、大衆文化におけるコンテンツ表現とその情報発信がどのように行われているのかについて学びます(実施方針4)。	(1)大衆文化と自分自身が鑑賞・体験した作品とを結びつけながら、その位置付けについて説明することができる。 (2)理論に則り適切に作品を批評することができる。	○	●		◎
		ウェブデザイン論	講義	2	2	○				この科目ではCPにおける実施方針のうち、文化の表現と発信を目的として、とくにウェブデザインについて学びます(実施方針4)。ウェブ制作に必要なCSS(Cascading Style Sheets)を習得し、ウェブサイトの開発・運営を行える知識・技術を身につけます。なお本授業ではW3Cによる標準化やSEO対策を意識したウェブサイトを制作し、学内サーバで公開します。	(1)CSS(Cascading Style Sheets)を理解し利用したウェブサイトの開発・運営をすることで、情報化する社会の中で一定の役割を果たすことができる。 (2)Web標準化を理解し、規格に準拠したウェブサイトの開発・運営をすることができる。 (3)SEO(Search Engine Optimization)を意識したウェブサイトの開発・運営をすることができる。			●	
		メディア表現基礎	演習	2	1	○				この科目ではCPにおける実施方針のうち、文化の表現と発信について学びます(実施方針4)。作品制作には、アナログとデジタル、コンテンツ制作のためのメディア処理、ヒトの知覚に関する知識が必要不可欠であり、具現化する際には造形力が問われます。コンセプトがどんなに凝っていたとしても、実物の仕上がりがお粗末であれば、コンセプトはとたんに説得力を失ってしまいます。講義とデッサンを通じた演習によって、メディアコミュニケーションに必要な映像・グラフィックデザイン・ウェブデザインに関する構想力と技術力の底上げを目指します。	(1)観察と表現、形と色、グラフィックス、タイポグラフィなど制作に必要な基礎知識について説明できる。 (2)デジタルツールを用いてクリエイティブ作業を行うためのハードウェア、ソフトウェアの基礎知識について説明できる。 (3)対象を見る力、構図を見極める力を養い、画材の特性を知り、絵を完成させることができる。	◎		●	
		グラフィックデザイン演習	演習	2	2	○				この科目ではCPにおける実施方針のうち、文化の表現と発信について学びます(実施方針4)。私たちの暮らす現代社会では、ネット環境を中心としたインフラの充実によって、ありとあらゆるものが実物を見ずともオンラインサービスを通じてディスプレイ越しに購入することが可能となりました。消費者は商品情報を画像から得るため、商品写真より魅力的に正しく伝えることは売り上げやクレームの多寡に直結します。この授業ではハンズオンやECサイトでの使用を想定した商品画像の作成を行います。具体的にはカメラ、ライトシェーピング、ブツ撮り、レタッチなどのスキルを身につけます。	(1)情報社会におけるメディアを通じたコミュニケーション手段のひとつとして、ECサイトの果たしている役割について説明することができる。 (2)ブツ撮りに関する知識(カメラの扱い、ライトシェーピング、レタッチなど)と加工技術を習得し、アイテムを正しく魅力的に見せることができるようになる。	◎		●	
		映像演習	演習	2	2	○				この科目ではCPにおける実施方針のうち、文化の表現と発信を目的として、とくに動画制作のやり方について学びます(実施方針4)。対象は初めて動画制作をする学生です。撮影機材の扱い方、映像編集ソフトPremiere Proを活用した編集方法を演習を通じて身につけていきます。前半はカット編集やテロップの挿入など基本的な映像制作技術を使った紹介動画の作成を、後半ではコマドリアニメーションを作成します。できあがった動画はYouTubeへアップロード(限定公開)することで、動画の表現と発信まで、そのやり方を一通り学んでいきます。	(1)映像制作に使用する機材の扱い方やソフトウェアの知識を身につけ、正しく操作することができる。 (2)人が表現したい内容を的確に表現する構想力とそれを支える映像技術を習得し、短編映像作品をつくることできる。 (3)完成した動画をYouTubeを通じて発信することができる。	◎		●	
		ウェブデザイン演習	演習	2	3	○				この科目ではCPにおける実施方針のうち、文化の表現と発信を目的として、とくにウェブデザインについて学びます(実施方針4)。ウェブデザインに関する幅広い課題に取り組むために、今までウェブデザイン系科目で学んできた知識や技術を活用します。	(1)ウェブサイトの企画から開発までの実務を行うことで、情報化する社会の中で一定の役割を果たすことができる。 (2)実務を行うために、足りない知識や技術を自ら学ぶことができる。			●	
	プログラミング演習	演習	2	2	○				この科目ではCPにおける実施方針のうち、文化の表現と発信を目的として、とくにプログラミングについて学びます(実施方針4)。コンピュータ上で動作するアプリケーションを開発するためには、プログラミングについての知識・技術が必要となります。この授業では、オブジェクト指向を実験を通して学び、アプリケーションの開発を行います。	(1)小規模なプロジェクトを作成することで、情報化する社会の中で一定の役割を果たすことができる。 (2)オブジェクト指向について理解し利用することができる。			●		

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位選択	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)			
												1.情報社会におけるメディアとコミュニケーション、国際社会における外国の人々とのコミュニケーション現象に幅広く関心をもつことができる。(知識・理解、態度)	2.日常生活の中で出会う情報を批判的に読み解き、多面的に判断することができる。(思考・判断、技能)	3.科学的な知見を基礎とした他者との円滑なコミュニケーションによって、家庭社会にあつても、地域社会にあつても、企業にあつても、情報化、国際化する社会の中で一定の役割を果たすことができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)	4.自分の卒業研究・卒業制作についてコミュニケーション学の観点から説明することができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)
文化交流と言語		文化デザイン演習 I	演習	★2		3		○		この科目では、CPIにおける実施方針のうち、文化の表現と発信について実践を通して学んでいきます(実施方針4)。日常生活や地域社会における諸問題をリサーチし、その解決を目的とした表現の発信を行います。そのため文化の表現と発信に関する様々な科目で学んだ知識(デザイン理論やコンテンツ制作理論)と技術(デジタルツールを用いたグラフィックや動画の制作)を横断的に活用し、駆使しながら問題の解決にあたります。	(1)社会・文化・流行などを調査し、ある解決策を提案することができる。 (2)社会の問題を解決するための手段のひとつとしてデジタルツールを活用したアウトプットを提案することができる。 (3)文化コンテンツの有効活用を考えることができる。 (4)ウェブデザイナー検定ベーシックに相当する知識を身につけ、活用することができる。	◎		●	
		文化デザイン演習 II	演習	★2		3		○		この科目では、CPIにおける実施方針のうち、文化の表現と発信について実践を通して学んでいきます(実施方針4)。日常生活や地域社会における諸問題をリサーチし、その解決を目的とした表現の発信を行います。そのため文化の表現と発信に関する様々な科目で学んだ知識(デザイン理論やコンテンツ制作理論)と技術(デジタルツールを用いたグラフィックや動画の制作)を横断的に活用し、駆使しながら問題の解決にあたります。	(1)社会・文化・流行などを調査し、ある解決策を提案することができる。 (2)社会の問題を解決するための手段のひとつとしてデジタルツールを活用したアウトプットを提案することができる。 (3)文化コンテンツの有効活用を考えることができる。 (4)ウェブデザイナー検定ベーシックに相当する知識を身につけ、活用することができる。	◎		●	
	GLO-141	異文化理解	講義	2		1		○		「イメージ」を通して「異文化」を理解する 本講義は、イメージを通じて「異文化」を理解することを目的とする。講義では、ジェンダー、帝国主義と国家、戦争とプロパガンダなどのテーマを通じて、ヨーロッパおよびアメリカ社会が世界に発信してきた「他者」のイメージについて考察する。これらの学びを通じて、学科CPIにおける実施方針の内、「異文化理解に必要な知識の習得、幅広い教養と国際感覚」の習得を目指す(実施方針5)。	(1)イメージが社会に与える影響力について理解できる。 (2)異なる文化や他者が歴史的にどのように表象されてきたのかを理解できる。 (3)異文化理解を阻害する「他者」へのまなざしを批判的に捉えることができる。	◎		●	
		アメリカ文化研究	講義	2		2		○		人種・階級・ジェンダーの多様性 本科目は、今日のアメリカ社会において注目を集めている「社会の分断」に焦点を当てて検討していくことを目的とする。アメリカは建国以来、「多様性のなかの統一」を理念として掲げて発展を遂げてきたのだが、各時代において人種・階級・ジェンダーの差異に基づく様々な困難に向き合い(時には目を背けてきた)歴史がある。本科目では、上記テーマに関する文献を読み、報告担当者や受講者間の議論(ディスカッション)を中心とした授業を展開していく。これらの学びを通じて、学科CPIにおける実施方針の内、「幅広い教養と国際感覚」の習得を目指す。(実施方針5)。	(1)アメリカ社会における人種・階級・ジェンダーの葛藤について説明できるようになる。 (2)文化的多様性の問題を世界的な問題として意識し、検討することができるようになる。 (3)他国の事情を理解した上で、その理解を自国理解に結び付けて考察することができるようになる。	◎		●	
		イギリス文化研究	講義	2		2		○		英語と深い関係をもつイギリス文化がどのように形成されてきたのかを、数千年のイギリス史の流れのなかで考察する。政治・社会・経済等の動きと密接な関係をもった文化現象を対象とするので、通史的な内容にはならない。また、現代のイギリス文化や社会に限定した講義にもならない。一回毎にトピックを選んで、それを中心に議論を深めていく形をとる。Iは16世紀ごろまで、IIはそれ以降から現代までを範囲とする。 ただし、イギリスに関連する重要な出来事が起きたときは、適時これを取りあげる。これらの学びを通じて、学科CPIにおける実施方針のうち、「文化交流の実践に必要な幅広い教養と国際感覚」の涵養を目指す(実施方針5)。	(1)英語と深い関係をもつイギリス文化に対する理解を深める。 (2)間接的に西洋世界の文化全般に対しての理解力を得る。 (3)文化現象を、歴史的蓄積としてとらえる視点、政治・社会・経済等の動きと関連したものとしてとらえる視点を身につけることができる。	◎		●	
		言語学概論	講義	△2		2		○		様々な言語現象の背後にある規則性、音声、語、文、文章のレベルで、また、言語と心理、社会、文化との関係において、更に、他の言語との比較の観点から概観する。テキストの各章を通して個々の言語の中にある普遍性を学習し、練習問題に取り組むことで現実と遭遇する様々な言語現象をその普遍性との関連で説明できるように訓練する。具体的には、各週1章ずつ進め、練習問題を宿題として課し、次週解答を配布する。各章末の発展問題から学生の興味に合わせて選択させ期末レポートの課題とする。これらの学びを通じて、学科CPIにおける実施方針のうち、「文化交流の実践に必要な幅広い教養と国際感覚」の涵養を目指す(実施方針5)。	(1)学生は、テキストを通して言語学の基本的な知識と手法を獲得して、言語現象を科学的に分析できるようになる。 (2)国際化する社会において、多様な観点から問題に取り組むことができるようになる。	◎		●	
		AIと言語	講義	△2		2		○		この科目ではCPIにおける実施方針のうち、幅広い教養と国際感覚を身につけることを目的として、とくに機械翻訳について学びます(実施方針5)。様々な言語で書かれた文章を機械翻訳を用いて読み解くための知識・技術を学びます。具体的にはGoogle翻訳やDeepLを用いて翻訳を行った様々な資料を読んでいきます。なお英語が中心となりますが、それ以外の言語も扱うことがあります。ただし機械翻訳を扱うため外国語で書かれた資料の情報収集を主とし、コミュニケーションや文化理解について学ぶことはできません。	(1)翻訳ツールや機械翻訳に関する知識を身につけることで、様々な言語で書かれた資料を読み解くことで、多面的に判断することができる。 (2)翻訳ツールや機械翻訳を用いて収集した情報をもとにレポートを書くことができる。	◎		●	○
	GLO-151	日本語教育学概論	講義	2		1		○		学科CPの実施方針のうち、主に日本語での円滑なコミュニケーション技能を身につけることに重点を置いた、日本語教師養成のための科目です(実施方針5)。まず、外国人を対象とした日本語教育の入り口として、異文化間教育やコミュニケーション教育としての日本語教育を理解します。そして、外国人に日本語を教える知識として不可欠な、日本語の構造を理解します。日本語の構造を単に知識として学ぶのではなく、日本語学習者への教え方と共に理解し、学習者の誤用例から、教える場合の注意点にもふれます。そして毎回の練習問題で、学生同士で理解の確認をしていきます。	(1)異文化間教育やコミュニケーション教育としての日本語教育を理解し、説明できる。 (2)日本語の構造を外国人に教える視点から理解し、説明できる。 (3)日本語の構造について、外国人に教える上で問題に直面した時も、解決策を検討することができる。 (4)日本語教師の仕事と、日本語の知識との関係を理解し、説明することができる。	◎	○	●	
GLO-251	日本語教授法	講義	2		2		○		学科CPの実施方針のうち、主に日本語での円滑なコミュニケーション技能を身につけることに重点を置いた、日本語教師養成のための科目です(実施方針5)。日本語教師となるために必要な「日本語教育実習」の前に、外国人に日本語を教えるための実践的な知識を学びます。日本語教師の仕事は、日本語コース全体を視野に入れ、コースの目標を設定し、教授内容を決め、教材を決め、毎回の授業で何を教えるか、どのような方法で教授するか、どう評価するかなど、多岐にわたります。これら一連の仕事を理解し、日本語教育実習へつないでいきます。	(1)日本語を教えるための実践的な知識を得て、それらが説明できる。 (2)初級・中級の日本語学習者への日本語教育を理解し、実践につなげられる。 (3)日本語教師の仕事の全体像がイメージできる。	◎	○	●		

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位選択	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.情報社会におけるメディアとコミュニケーション、国際社会における外国の人々とのコミュニケーション現象に幅広く関心をもつことができる。(知識・理解、態度)	2.日常生活の中で社会情報を批判的に読み解き、多面的に判断することができる。(思考・判断、技能)	3.科学的な知見を基礎とした他者との円滑なコミュニケーションによって、家庭社会にあっても、地域社会にあっても、企業にあっても、情報化、国際化する社会の中で一定の役割を果たすことができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)	4.自分の卒業研究・卒業制作についてコミュニケーション学の観点から説明することができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)
学科専攻科目	コミュニケーション	Speaking for International Communication	講義	2	2			○	身近なトピックについて自身の意見を整理し、英語で意見を交換し発表することで、他者の文化や価値観を知り、理解を深めつつ、英語での社会言語的スキルも含めた英語のスピーキング力向上にアプローチします。場にふさわしい適切な言語使用への意識を高めます。グループディスカッション、ペアワーク、プレゼンテーションを行います。これらの学びを通じて、学科CPにおける実施方針の内、「円滑なコミュニケーション能力の習得」を目指す(実施方針5)。  (ケビンが足した文・英訳) By organizing their own opinions on familiar topics and exchanging those opinions in English, students will learn about and deepen their understanding of other people's cultures and values, while simultaneously improving their English speaking skills. They will also gain a better awareness appropriate language use in different situations and contexts. To this end, students will regularly engage in group discussions, pair work, and presentations during class time.  This class is conducted in accordance with the Tokiwa University Department of Communication Curriculum Policy (Section 4).	(1)文化・価値観の多様性について学び、それらを踏まえ、自分の考えを英語で話すことができる。 (2)社会言語的に適切な表現を意識し、使用することができる。 (3)さまざまな文化的価値観や態度について学ぶことで、自己の文化的アイデンティティへの意識を高め、異文化への感受性を高める。  ケビンが足した文: By the end of this course, students will: ・Learn about the diversity of different cultures and values, and be able to express their thoughts about these in English. ・Be aware of and use sociolinguistically appropriate expressions in different situations and contexts. ・Increase awareness of their own cultural identity and sensitivity to other cultures by learning about various other cultural values and attitudes.	◎	●			
	GLO	Discussing Current Issues	演習	2	2			○	This course focuses on the introduction and application of fundamental skills for holding a discussion in English. The course includes discussing personal experiences and ideas, exploring and choosing from possible positions, and critically thinking through available criteria and options to find the best solution to a problem.  This class is conducted in accordance with the Tokiwa University Department of Communication Curriculum Policy (Section 5).	(1)At the end of this course students will be able to engage in different types of discussion and apply unique principles for each discussion type. They will also be able to use appropriate language strategies for discussion and use self-assessment as a way to improve their performance.	◎	●			
	GLO	英語コミュニケーション演習 I	演習	◆2	2			○	In this course, a variety of topics will serve as the mechanism for creativity and discussion. This course will focus on interactive production, communication strategies, and presentation skills. As part of the catalyst for discussion, students will create a scrapbook of information about themselves and present it to members of the class in small groups.  This course is ideal for students who want to study abroad in the future, because the topics represent typical conversation themes for college students in other countries.  This class is conducted in accordance with the Tokiwa University Department of Communication Curriculum Policy (Section 5).	(1)The purpose of this course is for students to develop their English communication skills by completing speaking and listening tasks focused on developing communication fluency. Students will practice initiating conversations, giving natural reactions, asking follow-up questions, and using active listening.  (2)At the end of this course students will be able to talk about a variety of topics related to common issues in their lives. Students will be able to introduce themselves, discuss various topics, and present pictorials that represent their life. Students will develop discussion, conversation, and listening skills appropriate for global communication.	◎	●			
	GLO	英語コミュニケーション演習 II	演習	★2	2			○	This course builds on「英語コミュニケーション演習 I」, focusing on interaction, communication strategies, and presentation skills in English. In preparation for discussion, students will create scrapbook pages of information about themselves and present it to classmates in small groups.  This course is ideal for students who want to study abroad in the future, because the topics represent typical conversation themes for college students in other countries.  This class is conducted in accordance with the Tokiwa University Department of Communication Curriculum Policy (Section 5).	(1)The purpose of this course is for students to develop their English communication skills by completing speaking and listening tasks focused on developing communication fluency. Students will practice natural reactions, follow-up questions and active listening.  (2)At the end of this course students will be able to talk about a variety of topics related to common issues in their lives. Students will be able to introduce themselves, discuss various topics, and present pictorials that represent their life. Students will develop discussion, conversation, and listening skills appropriate for global communication.	◎	●			
	GLO	日本語教育実習	実習	★2	3			○	学科CPの実施方針のうち、主に日本語での円滑なコミュニケーション技能を身につけることに重点を置いた、日本語教師養成のための科目です(実施方針5)。「日本語教育学概論」および「日本語教授法」を修得した学生が、得た知識を再構成し、実際の教授活動を行えるように、学内外で模擬授業および教壇実習を行います。学内では日本人学生を外国人学習者に見立てた模擬授業、交換留学生を対象にした教壇実習を行います。また学外では県内日本語学校か海外協定校かのいずれかで教壇実習、および地域の日本語教室でのボランティア活動を行います。	(1)多様な教育現場を知り、それぞれの現場に合わせた授業計画が立てられる。 (2)授業の目標を明確にし、目標に向かった授業設計を教案として書くことができる。 (3)授業において教案通りのパフォーマンス、および教案通りにできないときの修正ができる。 (4)授業を振り返り、改善策を検討し、実践できる。	◎	○	●		
		英語学	講義	2	1			○	英語の規則を考え、分析しよう  英語学とは、英語の使い方や成り立ち、仕組みを分析し、解明する学問です。本講義では、専門的知識や人間に関する基礎的理解の修得を目指すカリキュラム・ポリシーにもとづき、大学に入るまでに学習した英文法を英語学という観点から見直し、英語に対する理解を深めることを目的とします。英語の音声(音声学・音韻論)、語(形態論)、文の仕組み(統語論)、文の意味(意味論)、文脈の意味(語用論)、英語の歴史(英語史)、英語の学び方(言語習得理論)を概観し、基礎概念と分析手法を学習します。加えて、実際に使われている英語の表現を読み聞きし、「分析・解明」するという実践的展開も行います。これらの学びを通じて、学科CPにおける実施方針の内、「実践的な英語コミュニケーション能力の向上」を目指します。(実施方針6)。	(1)前提となる英文法の基礎的な知識を理解している。 (2)英語の音声・単語・文法・意味の体系や歴史の変遷・習得論に関する知識や仕組みを理解している。 (3)上の①・②の知識を活用して、さまざまな英語表現を分析し、説明することができる。 (4)理解した事柄や自分の考え・アイデアを表現し、他者に伝えることができる。	◎	●			
		英語文学	講義	2	1			○	アメリカ文学の1920年代の時代と代表的な小説を味わう  アメリカの生活が出来上がったと言われる1920年代は、様々な形で世界にいまに与えている。それを理解した上で、その時代に生み出された小説はどうか理解できるのか。生み出された文化や政治、人間を理解しつつ、文学を学んでいく。これらの学びを通じて、学科CPにおける実施方針の内、「言語にまつわる文化や歴史に関する知識」の習得を目指す。(実施方針6)。	(1)1920年代アメリカの文化や時代を理解できる。 (2)この時代にいかにか作家が登場し、いかに活躍したかが説明できる。 (3)この時代に活躍した作家やその特徴を説明できる。 (4)この時代の文化や政治と作品との関係を理解し説明できる。		●			

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位選択	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)			
												1.情報社会におけるメディアとコミュニケーション、国際社会における外国の人々とのコミュニケーション現象に幅広く関心をもつことができる。(知識・理解、態度)	2.日常生活の中で出会う情報を批判的に読み解き、多面的に判断することができる。(思考・判断、技能)	3.科学的な知見を基礎とした他者との円滑なコミュニケーションによって、家庭にあつても、地域社会にあつても、企業にあつても、情報化、国際化する社会の中で一定の役割を果たすことができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)	4.自分の卒業研究・卒業制作についてコミュニケーション学の観点から説明することができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)
英語と英語教育		イギリス文学	講義	2	1			○		この授業はCPの実施方針のうち、言語を取り巻く文化や歴史に関する知識および発表技能を身につけることに重点を置いて授業を展開します。(カリキュラムポリシー実施方針6)今日にいたるまで世界の演劇・文学・舞台芸術等に強い影響を与え続けているW.シェイクスピアを中心に据え、中世から初期近代にいたるイギリス演劇の誕生と発展の過程を学び、代表的な作品を読むことを通じてイギリス演劇の特性に対する理解を深め、鑑賞力を養うことを目的とします。まずはシェイクスピアが登場する前の演劇をめぐる文化的・社会的状況や当時の劇場構造等を学び、次にシェイクスピアが劇作家として活躍し始める頃の演劇状況を学びます。そのうえでシェイクスピアの作品を正確に読み、言語の特性や人物造形、ドラマツルギー等を具体的に考察します。その際、作品がさまざまな時代・地域、特に現代社会の中でどのように受容され、演出されているのか、またそれがどのような相互作用や影響を与えたのかに留意しながら考察を深めていきます。	(1)イギリス演劇の誕生と発展に関する知識を身につけることができる。 (2)シェイクスピアが活躍したころの演劇状況を理解することができる。 (3)シェイクスピア作品を読み、その特性を理解して鑑賞することができる。 (4)シェイクスピア作品の時代や地域を超えた受容について理解することができる。			●	
		アメリカ文学	講義	2	1			○		本授業は広い視野から人間や社会を理解し、国際的に活躍できる人材となることを目指して学ぶものである。アメリカ文学を「アメリカ研究」の立場(アメリカで起きた出来事や文化として人物)から考察してゆく、興味深い講義です。作家の生没や作品の出版年を暗記するのではなく、作品が生み出された時代とそこに生きた人々の心情、そして出来事から読み解き明かしていきます。資料として映画化された作品や背景がわかる映像資料も講義で紹介して、理解をふかめてもらいます。これらの学びを通じて、学科CPにおける実施方針の内、「言語にまつわる文化や歴史に関する知識」の修得をめざします。(実施方針6)	(1)アメリカ文学を学際的な視点で、体系的に理解し、それを踏まえてレポートかつ解説ができる。 (2)それぞれの時代で生み出された小説が、なぜそこで作家により書かれたかが、アメリカ史の中で理解でき、文章や口頭で説明できることを目標とする。			●	
	GLO-132	英語表現演習 I	演習	2	1			○		本講座のねらいは、パラグラフ・ライティングの実践を通して学習者の発信力を強化する、言い換えれば、英語によって自分の考えを「伝える」方策の要点を確実に身に付けることにある。授業ではパラグラフ・ライティングの基礎と伝える内容に適したパラグラフの展開法を学び、実際にパラグラフを作成していく。また、ジャーナルライティングの活動を通して、日常的に英語を書く習慣を身に付ける。本科目はコミュニケーション学科カリキュラム・ポリシーのうち、特に英語運用技能の養成に重点を置く(実施方針6)。	(1)パラグラフの基本的な書式と構造について説明することができる。 (2)自分の考えをパラグラフの形式で伝えることができる。 (3)日常的話題について、簡単な英文で記述することができる。	◎	○	●	
	GLO-133	英語表現演習 II	演習	2	1			○		本講座のねらいは、パラグラフ・ライティングから エッセイ・ライティングへとつなげることによって、学習者の発信力を強化する、言い換えれば、英語によって自分の考えを「伝える」方策を確実に身に付けることにある。授業ではパラグラフの基本構造を確認した上で、エッセイの基本構造や書式、展開法を学び、実際にパラグラフやエッセイを作成していく。また、ジャーナルライティングの活動を継続的にを行い、日常的に英語を書く習慣を身に付ける。本科目はコミュニケーション学科カリキュラム・ポリシーのうち、特に英語運用技能の養成に重点を置く(実施方針6)。	(1)エッセイの基本的な書式と構造について説明することができる。 (2)自分の考えをエッセイの形式で伝えることができる。 (3)日常的話題について、構造的にやや複雑な文を使って記述することができる。	◎	○	●	
	GLO-134	英語表現演習 III	演習	2	2			○		Developing Communication Skills through Writing 英語をコミュニケーションのための道具ととらえ、書くことを通じて文法の理解を深めるとともに、自身を表現するための英語のスキル向上を図ります。教科書の練習問題や言語活動に取り組むことで、ライティングプロセスのステップを学び、話すことへもつなげます。アイデアを整理し、英語で表現することに慣れ、「通じる英語」への意識を高めます。また、書くことを話すこととのスキル向上および語彙を増やすことにつなげます。本科目はコミュニケーション学科カリキュラム・ポリシーのうち、特に英語運用技能の養成に重点を置きます(実施方針6)。英語表現演習 I と II は履修済みであることを前提として授業を行います。	(1)標準的なパラグラフの構造を理解したうえで、適切なプロセスで英語の文法やスタイルに注意を払い、文章を書くことができる。 (2)使用語数制限がある本を多読したり、Journalをある程度流暢に書くことができる。 (3)英語で効果的にコミュニケーションを図るためのツールとして文法をとらえ、準備した事柄について、口頭で発表することができる。	◎		●	
	GLO-135	英語表現演習 IV	演習	2	2			○		Enhancing Communication Skills through Writing これまで学習したスキルを駆使し、さらにコミュニケーション・スキルを向上させます。授業では、教科書の解説や課題を通して書くプロセスや文法項目を理解使用することで英語のスキル向上を図ります。話す・書くといったProductive Skillsを使用する活動を多く行います。規模は小さいものの、英語でのグループディスカッションや多読で読んだ本について口頭でのプレゼンテーションも行います。本科目はコミュニケーション学科カリキュラム・ポリシーのうち、特に英語運用技能の養成に重点を置きます(実施方針6)。英語表現演習 I、II、IIIが履修済みであることを前提として授業を行います。	(1)標準的なパラグラフの構造を理解したうえで、書くための適切なプロセスを通し、適切な英語の文法やスタイルで文章を書くことができる。 (2)使用語数制限のない英語母語話者向けに書かれた本を読むことができる。 (3)Journalを流暢に書くことができる。 (4)効果的にコミュニケーションを図るためのツールとして文法を駆使することができる。	◎		●	
		地域研究入門	講義	2	3					東南アジア・西ヨーロッパ・オセアニア・北アメリカの諸地域を題材として、地域研究の基本を学修する。諸地域の特徴について国や民族の相互関係も考慮しながら講義し、最新の情報とともに、地域研究の方法論を検討する。本科目の内容は、CPにおける実施方針のうち、異文化の観点からコミュニケーションの理解を深めることに関連する(実施方針5)。	(1)地域研究の方法の基本を十分に理解しその実践を進められ、対象となる地域について、学んだ方法を適用して研究し、その結果を伝達できる。 (2)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特に地域研究に関する知識)を身につけている。			●	
		地域研究(アジア) I	講義	2	3					中国の抱える課題を中心に 中国の国家体制について理解するため、まず中国共産党と中華人民共和国の歴史に関する講義を行う。現在の中国共産党が指導する国家と政治体制のあり方について論じた上で、中国の抱えるさまざまな問題とその対処方法について説明する。最後に、中国の「核心的問題」である領土問題に関連して少数民族問題と台湾との関係について説明し、日中関係についても理解を深める。本科目の内容は、CPにおける実施方針のうち、異文化の観点からコミュニケーションの理解を深めることに関連する(実施方針5)。	(1)本科目では、隣国でありアジアの大国である中国の政治・社会の抱える様々な課題をテーマとする。履修者が、異なる国家体制について理解を深めるとともに、異なる価値観やイデオロギーについて知ることにより、自らの生きる社会のあり方について思索を深めることを目標とする。			●	
		地域研究(アジア) II	講義	2	3					西アジア 歴史上古代から重要な位置を占め続け、現代でも国際社会の注目を集める西アジア(いわゆる中東)を対象として講義する。西アジアのいくつかの地域を、国や民族の相互関係も考慮しながら、最新の情報とともに順次検討していく。そこに現われるさまざまな事象は、世界情勢の縮図であるとも言われ、国際問題を読み解く学力も養っていく。本科目の内容は、CPにおける実施方針のうち、異文化の観点からコミュニケーションの理解を深めることに関連する(実施方針5)。	(1)他の地域との関係も考慮して西アジアの国家や民族の歴史と現状を深く理解できる。 (2)複雑な国際社会を見きわめる有効な視点を持つようになる。 (3)教職課程履修者については、① 授業を成立させるための要件(学習課題、板書、発問等)を理解し、基礎的な技能をもって指導することができる。②教科等に関する専門的知識を有し、教材の内容を分析・解釈し、適切な授業準備をすることができる。			●	

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位選択	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)			
												1.情報社会におけるメディアとコミュニケーション、国際社会における外国の人々とのコミュニケーション現象に幅広く関心をもつことができる。(知識・理解、態度)	2.日常生活の中で出会う情報を批判的に読み解き、多面的に判断することができる。(思考・判断、技能)	3.科学的な知見を基礎とした他者との円滑なコミュニケーションによって、家庭にあっては、地域社会にあっては、企業にあっては、情報化、国際化する社会の中で一定の役割を果たすことができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)	4.自分の卒業研究・卒業制作についてコミュニケーション学の観点から説明することができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)
関連科目		地域研究(アメリカ) I	講義	2	3				地域研究の手法としての「社会史」	本講義では、アメリカ合衆国の未完の理想/理念である「多様性のなかの統一」というテーマに焦点を当てて、同国の多様性を支えてきたマイノリティの人々と文化・政治の関係を概観していく。具体的には、「アフリカ系アメリカ人」、「ネイティブ・アメリカン」が置かれてきた政治・社会状況を検討していくことを目的とする。本科目の内容は、CPにおける実施方針のうち、異文化の観点からコミュニケーションの理解を深めることに関連する(実施方針5)。	(1) 地域研究の手法として「社会史」の方法論について基本的な内容を理解できるようになる。 (2) アメリカのマイノリティについて歴史的に理解できるようになる。 (3) プレゼンテーションを通じて相手に伝える能力を修得する。			●	
		地域研究(アメリカ) II	講義	2	3				研究手法の「学際性」について考える	「地域研究(アメリカ) I」で学習した地域研究の手法としての「社会史」に再び焦点を当てて、社会的弱者としてのマイノリティ(移民とジェンダー)の問題を中心として概観する。また、「人種」という概念を相対化し、社会的構築主義の立場から集団を一括りにすることが如何に可能(不可能)かを検討する。 本科目の内容は、CPにおける実施方針のうち、異文化の観点からコミュニケーションの理解を深めることに関連する(実施方針5)。	(1) 移民や性的弱者が置かれてきた状況について理解できるようになる。 (2) 「人種」の概念の歴史の変遷について理解できるようになる。 (3) プレゼンテーションを通じて相手に伝える能力を修得する。			●	
		地域研究(ヨーロッパ) I	講義	2	3				ヨーロッパ地域の文化・社会に関連して、教育活動を担うにあたり必要な基本的資質・素養ならびに専門的知識を取り上げる。ヨーロッパ以外の世界に生活している私たちに影響を与えてきた、ヨーロッパ世界の事象やその特質を歴史的に考察する。古代オリエントから現代のEUまで、幅広く俯瞰的に事象や特質を取り上げて考察を深める。 本科目の内容は、CPにおける実施方針のうち、異文化の観点からコミュニケーションの理解を深めることに関連する(実施方針5)。	(1) ヨーロッパ地域の文化・社会に関連して、教育活動を担うにあたり必要な基本的資質・素養ならびに専門的知識を身につけることができる。ヨーロッパ世界の特質を理解し、私たちの世界の文化・社会を、世界的に考察できる。			●		
		地域研究(ヨーロッパ) II	講義	2	3				ヨーロッパ地域を対象として、第1に、「地域研究」という学問分野とは何か、どの様にして生まれ発展したかを、とくに植民地支配や戦争の道具であったという視点から講義する。第2に、「ヨーロッパ」と自称する地域の大圏(おおづか)みな捉え方を概説する。第3に、東欧・中欧諸国を含めた歴史や特徴、今日に至る問題点を概説する。第4に、一つの国や地域に関心を持つとはどのようなことかを、授業を担当する教員自身を事例研究の対象として学ぶ。 本科目の内容は、CPにおける実施方針のうち、異文化の観点からコミュニケーションの理解を深めることに関連する(実施方針5)。	(1) 領域横断的な教養として、異国の事物について学び、また継続的に関心を持ち続け、地理と歴史を縦横にからめて国際的な観点から把握する習慣を身につけている。 (2) 社会科学・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特にヨーロッパ地域に関する知識)を身につけている。			●		
		地域文化資源と観光	講義	2	2				観光地域活性化を考える	我が国は観光立国宣言、観光立国推進基本法の制定などを機に観光による地域活性化を各地域で取り組んでおり、そのためには地域文化資源が重要となる。地域文化資源はその価値や魅力に気付いていない、知られていないことも多々あり、その資源発掘には外部からの目も必要である。この講義の前半では、観光資源、文化財、山岳と中山間地、世界遺産、食と名産品、コンテンツなどの地域文化資源の概要と魅力を理解する。後半は、具体的な事例を用いて、その魅力と観光がもつ地域への効果を考え、幅広く地方を創生し活性化をする必要と重要性を認識し、地域社会でのリーダーシップを学修する。 幅広い観点からの知識を蓄え、現代社会で地域文化資源と観光に関する諸問題に対して、正當に評価できる能力と、解決策を導き提言・提案できる能力を有し、グローバル化する社会に貢献できる実践的能力を備えた人材を養成をする。 なお、本講義は旅行記者、編集者として長年各地の観光状況を取材し紹介してきた実務経験を踏まえて、また観光庁や自治体観光行政の委員を務め観光地域資源や観光地域活性化を審査したことも活かした内容である。 「観光文化産業論」と合同開講。 本科目の内容は、CPにおける実施方針のうち、地域と観光に焦点を当てたうえで、コミュニケーションの理解を深めることに関連する(実施方針4)。	(1) 地域文化資源と観光は、観光事業、農水産や工業、飲食や物販、コンテンツ産業などと地域文化資源の関わりを理解できる。 (2) 地域の特性や魅力とその可能性に気づき、それらが産業や雇用を生み、地域の人々の暮らしを豊かにする観光交流を促進するスキルと資質を身につけることができる。 (3) 地域文化資源と観光で地方を創生し活性化する必要性と重要性を認識し、地域社会の中でリーダーシップを発揮することで地域社会のニーズに応える姿勢を身につける。		◎	●	
		観光外国語	講義	2	2				観光外国語	観光外国語に必要とされる知識は地理、歴史、文化に渡る幅広いものである。授業では、通訳案内士試験関連の書籍に沿って、実際の観光案内の場面で想定されるトピックを学習する。教科書としては関東の観光名所の英語による紹介の本を使用し楽しく様々な表現を習得する。加えて、期末のレポートとして観光案内説明文の作成をする。出席は、毎回、出席課題の提出をもって付ける。 本科目の内容は、CPにおける実施方針のうち、観光に焦点を当てた英語運用技能に基づいて、文化交流を実践することに関連する(実施方針6)。	(1) 観光案内の場面で遭遇する様々なトピックを英語で説明できるようになる。国際化する社会において多様な、日英比較の観点から問題に取り組むことができる。			●	
		国際法	講義	2	2				国際社会における法の支配	本講義では、国際社会を規律する法である国際法の基本を学ぶ。国際社会とは何か、国際法とは何か、国際社会において法の支配は存在するのかといった基本的な問題を検討し、更に、現実の国際社会の動きに即して、国際法がいかなる役割を果たしているのかを学ぶ。 本授業では、外務省職員、国際公務員としての実務経験を有する教員が、その経験を生かして講義する。 本講義の内容は、CPにおける実施方針のうち、国際法の基本を身につけることにより、異文化の観点からコミュニケーションの理解を深めることに関連する(実施方針5)。	(1) 国際法の基本的な用語や概念について正しく説明することができる。 (2) 国際社会の出来事について、国際法の観点から解説することができる。			●	
	国際政治	講義	2	2				国際政治	「国際政治」と日本語で言うて怪しむ人は少ないが、実はこれは英語の「International Politics」の誤訳が定着してしまったものである。英語(および欧米文化圏)の概念では「Politics」とは「政争」を意味する。つまり「国際政治」とは、世界規模で遂行される政争術である。因みに「Political Science」を正確に訳せば「政争術」であり、日本語の政治学に相当する英語は「Government Studies」である。本授業は国際関係における政争術という観点から講ずる。論理的な枠組みを踏まえつつ、随時実例を交えて、解説する。 法律行政分野の学科専門科目としての特性から、国際関係の根幹にある諸原理を、法学的な観点からも体系的に学修できる。 なお、本講義は、人間科学部の「政治学(国際政治を含む)」と同時開講である。 本講義の内容は、CPにおける実施方針のうち、国際政治に関して学ぶことによって、異文化の観点からコミュニケーションの理解を深めることに関連する(実施方針5)。	(1) 世界の諸問題を把握し、修得した知識を社会で活用できる能力が身に付く。 (2) 法律・行政・国際関係に関する基礎的知識を身につけ、社会の実態を広い視野から理解することができる。同時に、関連する法制度と行政をめぐる様々な現代的問題について、論理的思考に基づき、適切な対応を提案することができるようになる。 (3) 将来、社会人として経験を積み、部下を持ち、他社の中堅以上の幹部や外国人社会人と付き合うようになった時に必要とされる、国際政治(正しくは国際政争)における諸問題を柔軟な思考で捉え、多面的な視野で判断する力を身につけることができる。		◎	●		



授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位選択	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)				
												1.情報社会におけるメディアとコミュニケーション、国際社会における外国人の人々とのコミュニケーション現象に幅広く関心をもちつことできる。(知識・理解、態度)	2.日常生活の中で出会う情報を批判的に読み解き、多面的に判断することができる。(思考・判断、技能)	3.科学的な知見を基礎とした他者との円滑なコミュニケーションによって、家庭にあっても、地域社会にあっても、企業にあっても、情報化、国際化する社会の中で一定の役割を果たすことできる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)	4.自分の卒業研究・卒業制作についてコミュニケーション学の観点から説明することができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)	
		国際社会学	講義	2		3				本講義では、国際的な現象を社会学の方法を用いて分析し、人の移動、対立、統合、統治の現状と課題について考えることで、現代社会の諸問題への関心を深める。本講義の内容は、CPにおける実施方針のうち、社会学の観点から現代社会におけるさまざまな問題への関心を深めることによって、異文化の観点からコミュニケーションの理解を深めることに関連する(実施方針5)。	(1)国際社会学の基礎概念について理解し、説明できる(知識・理解)。 (2)国際人口移動に関連する国内外の現象をよみとり、社会学の理論と関連付けて説明できる(理解)。		◎	●		
卒業研究	THS-201	ゼミナール I	演習	2		3				本学科ではゼミナール I・IIを、「1・2年次の勉学をさらに進展させると共に、大学での勉学の集大成としての「卒業論文」の作成に向けた教育・勉学を行うもの」として位置づける。カリキュラム・ポリシーにおいては、卒業論文および卒業制作の作成に向けた知識と技術を身につけることと関連する(実施方針7)。	(1)自分の卒業研究・卒業制作についてコミュニケーション学の観点から説明することができる。 (2)日常生活の中で出会う情報を批判的に読み解き、多面的に判断することができる。 (3)科学的な知見を基礎とした他者との円滑なコミュニケーションによって、家庭にあっても、地域社会にあっても、企業にあっても、情報化、国際化する社会の中で一定の役割を果たすことできる。				●	
	THS-202	ゼミナール II	演習	2		3				本学科ではゼミナール I・IIを、「1・2年次の勉学をさらに進展させると共に、大学での勉学の集大成としての「卒業論文」の作成に向けた教育・勉学を行うもの」として位置づける。カリキュラム・ポリシーにおいては、卒業論文および卒業制作の作成に向けた知識と技術を身につけることと関連する(実施方針7)。	(1)自分の卒業研究・卒業制作についてコミュニケーション学の観点から説明することができる。 (2)日常生活の中で出会う情報を批判的に読み解き、多面的に判断することができる。 (3)科学的な知見を基礎とした他者との円滑なコミュニケーションによって、家庭にあっても、地域社会にあっても、企業にあっても、情報化、国際化する社会の中で一定の役割を果たすことできる。				●	
	THS-301	卒業論文 I	演習	2		4				本学科は卒業論文 I・IIを「勉学をさらに進展させると共に、大学での勉学の集大成としての「卒業論文」の作成に向けた教育・勉学を行うもの」として位置づける。各教員が、卒業論文および卒業制作に向けた指導を行なう。カリキュラム・ポリシーにおいては、4年間の学びの集大成として、演習等を通じて各自のテーマを深め、論文や作品にまとめる力を身につけることと関連する(実施方針7)。	(1)情報社会におけるメディアとコミュニケーション、国際社会における外国人の人々とのコミュニケーション現象に幅広く関心をもちつことできる。 (2)自分の卒業研究・卒業制作についてコミュニケーション学の観点から説明することができる。 (3)日常生活の中で出会う情報を批判的に読み解き、多面的に判断することができる。 (4)科学的な知見を基礎とした他者との円滑なコミュニケーションによって、家庭にあっても、地域社会にあっても、企業にあっても、情報化、国際化する社会の中で一定の役割を果たすことできる。				●	
	THS-302	卒業論文 II	演習	4		4				本学科は卒業論文 I・IIを「勉学をさらに進展させると共に、大学での勉学の集大成としての「卒業論文」の作成に向けた教育・勉学を行うもの」として位置づける。各教員が、卒業論文および卒業制作に向けた指導を行なう。カリキュラム・ポリシーにおいては、4年間の学びの集大成として、演習等を通じて各自のテーマを深め、論文や作品にまとめる力を身につけることと関連する(実施方針7)。	(1)自分の卒業研究・卒業制作についてコミュニケーション学の観点から説明することができる。 (2)日常生活の中で出会う情報を批判的に読み解き、多面的に判断することができる。 (3)科学的な知見を基礎とした他者との円滑なコミュニケーションによって、家庭にあっても、地域社会にあっても、企業にあっても、情報化、国際化する社会の中で一定の役割を果たすことできる。				●	
教職関連科目		英語科教育法 I	講義	2		2			指導技術の基礎(中学校・高等学校)	中学校及び高等学校の英語科教員を志す学生を対象とし、ビデオの視聴、意見交換、模擬授業を通して実践的に英語の指導技術の基礎を身につけます。具体的な項目は以下の通りです。 ①学習指導要領や教科用図書、目標設定・指導計画、小・中・高等学校の連携(カリキュラム/シラバス) ②中学校及び高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」を支える英語の音声的特徴や文字、語彙・表現、文法、異文化理解に関する指導(生徒の資質・能力を高める指導) ③学修のまとめとして、中学生または高校生を対象とした模擬授業を実施する。 本授業と英語科教育法 IIの内容を併せて学修することにより、英語科教育法の全体像を理解することができるようにデザインされています。 これらの学びを通じて、学科CPにおける実施方針の内、「実践的な英語コミュニケーション能力」の習得を目指す。(実施方針6)。	(1)小学校、中学校及び高等学校の学習指導要領及び教科用図書について理解し、小・中・高等学校の連携のあり方について説明することができる。 (2)中学校及び高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」を支える音声や文字、語彙・表現、文法、異文化理解の指導について基本的な知識を身に付け、応用を試みることができる。 (3)異文化理解の指導や英語による授業展開、ALT等とのチーム・ティーチングの方法、生徒の特性や習熟度に応じた指導について理解し、説明することができる。 (4)上記3点で学修した内容を模擬授業の実践において生かすことができる。 (5)自身と教職について省察することができる。 (6)自分の理想の教師像を描き、それに近づこうとする努力を継続できる。				●	
		英語科教育法 II	講義	2		2				本授業では、中学校及び高等学校における外国語の指導と評価に関する知識及び技能を身に付ける。具体的には以下の項目について学修する。 ①「カリキュラム/シラバス」 中学校及び高等学校学習指導要領、教科用図書、学習到達目標及び年間・単元・各時間の指導計画 ②「生徒の資質・能力を高める指導」 中学校及び高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」、複数の領域を統合した言語活動の指導 ③「授業づくり」 学習到達目標に基づく授業の組み立て、学習指導案の作成 ④「学習評価」 観点別学習状況の評価、評価規準の設定、評定への総括、パフォーマンス評価等を含む言語能力の測定と評価 ⑤学修のまとめとして、高校生を対象とした模擬授業を実施する。(実施方針6)	本授業では、中学校及び高等学校における外国語の指導と評価をテーマとして、以下の到達目標を達成するための知識及び技能を身に付ける。 (1)中学校及び高等学校の学習指導要領と教科用図書について理解するとともに、学習到達目標及び年間・単元・各時間の指導計画について理解する。 (2)中学校及び高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」の指導について基本的な知識を身に付けるとともに、複数の領域を統合した言語活動の指導法を身に付ける。併せて教材やICTの活用法を知る。 (3)中学校及び高等学校の学習到達目標に基づく各学年や科目の年間指導計画・単元計画・各時間の指導計画及び授業の組み立て方について理解し、学習指導案の作成方法を身に付ける。 (4)中学校及び高等学校における年間を通した学習到達目標に基づく評価の在り方、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、さらに評定への総括の仕方について理解する。併せてパフォーマンス評価等を含む言語能力の測定と評価の方法を理解する。 (5)上記(1)～(4)で学修した内容を模擬授業の実践において生かすことができる。				●	◎
		英語科教育法 III	講義	2		2				指導と評価(中学校)	中学校及び高等学校の英語科教員を志す学生を対象とし、ビデオの視聴、意見交換、模擬授業を通して実践的に英語の指導技術の基礎を身につけます。具体的な項目は以下の通りです。 ① 中学校学習指導要領、教科用図書、学習到達目標及び年間・単元・各時間の指導計画(カリキュラム/シラバス) ② 中学校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」、複数の領域を統合した言語活動の指導(生徒の資質・能力を高める指導) ③ 学習到達目標に基づく授業の組み立て、学習指導案の作成(授業づくり) ④ 観点別学習状況の評価、評価規準の設定、評定への総括、パフォーマンス評価等を含む言語能力の測定と評価(学習評価) これらの学びを通じて、学科CPにおける実施方針の内、「実践的な英語コミュニケーション能力」の習得を目指す。(実施方針6)。	(1)中学校の学習指導要領及び教科用図書について理解するとともに、学習到達目標及び年間・単元・各時間の指導計画を理解することができる。 (2)中学校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」の指導について基本的な知識と言語活動の指導法・教材・ICTの活用法を説明することができる。 (3)中学校の学習到達目標に基づく各学年や科目の年間指導計画・単元計画・各時間の指導計画及び授業の組み立て方について理解し、学習指導案の作成方法を説明することができる。 (4)中学校における年間を通した学習到達目標に基づく評価の在り方、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、さらに評定への総括の仕方について理解し、説明することができる。併せてパフォーマンス評価等を含む言語能力の測定と評価の方法を説明することができる。 (5)上記4点で学修した内容を模擬授業の実践に応用することができる。				●

2022年度 常磐大学 人間科学部 コミュニケーション学科 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位選択	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連					
												1.情報社会におけるメディアとコミュニケーション、国際社会における外国人の人々とのコミュニケーション現象に幅広く関心をもつことができる。(知識・理解、態度)	2.日常生活の中で出会う情報を批判的に読み解き、多面的に判断することができる。(思考・判断、技能)	3.科学的な知見を基礎とした他者との円滑なコミュニケーションによって、家庭社会にあっても、地域社会にあっても、企業にあっても、情報化、国際化する社会の中で一定の役割を果たすことができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)	4.自分の卒業研究・卒業制作についてコミュニケーション学の観点から説明することができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)		
		英語科教育法Ⅳ	講義	2	2			○		本授業では、第二言語習得に関する基礎的な知識及びメカニズムを学び、それに基づく実践的な指導法や活動について具体的に考える。第一に、英語教師が第二言語習得を学ぶことの意義、第二言語の習得プロセスとインプット、アウトプット、インタラクションの役割、第二言語習得における母語・年齢・文化の影響、動機付け、学習方略と学習スタイル、外国語教授法の変遷について学修する。第二に、フォーカス・オン・フォームやインプット強化、処理指導、フィードバック、タスク・ベースの指導、ペア・グループワークの指導をはじめとする第二言語習得理論に基づいた各種指導法及び具体的な指導技術について学修する。最後に学修のまとめとして、中学生または高校生を対象とした模擬授業を実施する。(実施方針6)	本授業では、学習者が第二言語・外国語を習得するプロセスについて基礎的な内容を理解し、授業指導に活かすための基礎的な知識及び技能を身に付けることを目標とする。			●			◎

2021年度以前入学生カリキュラム 常磐大学 人間科学部 コミュニケーション学科 履修系統図

CO-M-111	コミュニケーション論入門	講義	2		1			○		この授業は、コミュニケーションの基礎概念を理解した上で、対人、組織、スピーチ、メディア、異文化といった様々なコミュニケーションに関する基礎知識を習得し、そのプロセスに関わる諸要因を指定し、学際的な視点から分析できることを目的とします。CPにおける実施方針のうち、コミュニケーションには多様な側面があること、その複雑さを理解することを目的とします(実施方針2)。	(1)コミュニケーションの各類型を列記し、具体例を示すことができる。 (2)コミュニケーションに関わる基礎的用語を定義できる。 (3)各類型のコミュニケーションの要因を指定しプロセスを説明できる。	●		◎		
CO-M-341	文化とコミュニケーション	講義	2		2			○	マイノリティーに焦点化した文化・言語・コミュニケーション 先住民であるアイヌ、明治まで独立国家であった琉球の人々、在日韓国・朝鮮人、在日中国人、ニューカマーの人々、ろう者、LGBTの人々など様々な文化を持つ人々が現在の日本には暮らしている。世界的規模では、英語帝国主義、少数言語・文化の消滅、欧州連合における民族国家の解体に伴うマイノリティーグループからの権利の主張や、複言語・複文化化が進行している。「異文化間コミュニケーション=国境を越える出会い」というステレオタイプを越えて、異質な他者と出会いその他者とのような関係性=コミュニケーションを構築していくかを考える。 この科目は学科のCPにおける実施方針のうち、複雑なコミュニケーション現象に興味を持ち、理解することに重点を置いた授業を展開します(実施方針2)。 この科目は日本語教師の資格には必修の科目です。	(1)文化という概念について基礎的な理解をしており、自ら考察することができる。 (2)文化とコミュニケーションの関係について基礎的な理解をしており、自ら考察することができる。 (3)英語帝国主義、少数言語・文化の消滅、民族国家の解体に伴うマイノリティーグループからの権利の主張、複言語・複文化化について基礎的な理解をしており、自ら考察することができる。	◎		●		○	
CO-M-221	コミュニケーション研究法(質問紙調査法)	講義	2		2			○	コミュニケーションという社会現象を分析するために必要な研究技法の基礎知識を修得することを目的とします。学際的な領域であるコミュニケーション学では、様々な研究方法が用いられています。この授業では、質問紙調査法(いわゆるアンケート調査)を中心としてコミュニケーション研究の科学的方法を学びます。質問紙調査を実施するための一連のプロセスを学び、実際に質問紙を作り、簡単な分析を行います。さらには、調査結果など、日常的に出会う情報を批判的に読み解くことを目指します。CPにおける実施方針のうち、コミュニケーションには多様な側面があること、その複雑さを理解することを目的とします(実施方針2)。	卒業研究についてコミュニケーション学の観点から説明する力をつけるため、次のような目標を設けます。 (1)コミュニケーション研究の方法を理解し、説明することができる。 (2)質問紙調査実施に当たっての注意事項を理解したい。 (3)研究目的に即し、かつ回答者にとって分かりやすい調査票が作成できる	●					○
CO-M-151	マス・コミュニケーション概論	講義	☆2		1			○	メディアとコミュニケーションに関わる知識の修得に関わる科目です。 コミュニケーションという社会現象のうち、マス・コミュニケーションを分析する能力の涵養を目的とします。コミュニケーションの1類型としてのマス・コミュニケーションについて理解を深めるために、(1)マス・コミュニケーションの送り手、(2)受け手、そして(3)影響という視点から、主要な研究について概説します。CPにおける実施方針のうち、メディアに関する理解を深めるための科目であり、特にマス・メディア産業の現状、受け手研究、効果研究など視点から理解を深めます(実施方針3)。	(1)マス・コミュニケーションに関わる専門用語を列記し説明できる。 (2)マス・コミュニケーションの受け手分析ができる。 (3)マス・コミュニケーションの効果分析ができる。	◎		●			
CO-M-251	メディアコミュニケーション論	講義	2		2			○	メディアとコミュニケーションに関する知識を習得するための科目です。この授業は、コミュニケーションという現象のうち、メディア・コミュニケーションを分析する能力の涵養を目的とします。ICT(Information and Communication Technology)としてのコンピュータやスマートフォンといった様々なメディアが我々の生活に入り込み、我々のメディア行動は、マス・コミュニケーションだけでは捉えきれなくなっています。 こうした状況を鑑み、この講義では、様々なメディアによるコミュニケーションを対象とします。マス・メディアによるコミュニケーションの問題は他の授業で扱われていますので、この授業では、インターネット、スマートフォンを取り上げることとします。 我々のコミュニケーションは、これらのメディアの発展によってどのように変容したのか、あるいは、どのような問題が生じているのか、といった「メディア・コミュニケーション」に関する言説を紹介して、現代社会の諸問題について考察していきます。CPにおける実施方針のうち、メディアに関する理解を深めるための科目です(実施方針3)。	(1)メディア・コミュニケーションに関わる用語を定義し、記述できる。 (2)インターネット、ソーシャルメディアなどによるコミュニケーションの特徴が記述できる。 (3)メディア・コミュニケーションの影響を、理論と関連づけて例示できる。	◎		●			
CO-M-131	社会心理学概論	講義	☆2		1			○	本授業では社会心理学領域の基礎的な知見と、近年注目を集めるようになった知見の両方を学びます。前者の知見としては社会的影響・社会的認知アプローチ・対人認知・対人行動・態度・自己と他者・社会的推論を、後者の知見として感情・意識・自動性を主に取り上げます。 本授業の内容は、CPにおける実施方針のうち、コミュニケーションに関する知識と技能を身に付けるための科目であり、具体的には社会心理学を通じて対人関係についての理解を深めることに重点を置きます(実施方針3)。	(1)授業で扱ったコミュニケーション現象に関する概念を、日常生活での具体的な事例と併せて理解できる。 (2)授業で紹介される実験や調査の結果が、何を表わしているかを理解できる。 (3)授業内容について自分の言葉で説明できる。	◎		●			
CO-M-331	対人関係の社会心理学	講義	2		2			○	本授業では、社会心理学領域における「他者」に焦点を当てた研究から得られた知見について学びます。コミュニケーションは、自己と他者によって成り立つものです。この授業では「自己」に加え、特に「対人認知」と「対人関係」について、社会心理学領域でどのような問題が、どのような手法で研究されているのかを学ぶことを通じて、対人関係にまつわる諸問題にアプローチします。 本授業の内容は、CPにおける実施方針のうち、コミュニケーションに関する知識と技能を身に付けるための科目であり、具体的には社会心理学を通じて対人関係についての理解を深めることに重点を置きます(実施方針3)。	(1)授業で扱ったコミュニケーション現象に関する概念を、日常生活での具体的な事例と併せて理解できる。 (2)授業で紹介される実験や調査の結果が、何を表わしているかを理解できる。 (3)授業内容について自分の言葉で説明できる。	◎		●			

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位選択	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連			
												1.情報社会におけるメディアとコミュニケーション、国際社会における外国の人々とのコミュニケーション現象に幅広く関心をもつことができる。(知識・理解、態度)	2.日常生活の中で出会う情報を批判的に読み解き、多面的に判断することができる。(思考・判断、技能)	3.科学的な知見を基礎とした他者との円滑なコミュニケーションによって、家庭社会にあっても、地域社会にあっても、企業にあっても、情報化、国際化する社会の中で一定の役割を果たすことができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)	4.自分の卒業研究・卒業制作についてコミュニケーション学の観点から説明することができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)
	CO-M-255	メディア制度論	講義	2	2			○		「メディア制度論」の前7回までの授業は、常磐大学のe-learningサイト(Moodle)のみを使用して行います。課題提出のため100字ないし200字の文字入力が必要です。PCなどのキーボードが使いやすい機器を使用して受講することを推奨します。授業では掲示板を用いてリアルタイムの意見交換を行います。受講生の皆さんは授業時間中はこのクラスにアクセスするようにしましょう。 カリキュラム・ポリシーにあるように、メディア制度論は、コミュニケーション学科の学科基本科目につき「日常的に出会う情報を批判的に読み解くための科目」としてメディアコミュニケーション領域に設置されている学科専攻科目です。	(1)「人間や組織が考え感じたことを伝える側面と、受け取る側面とを分析的に探求する」スキルをマス・メディアの制度的側面についての検討を通じて身につけます。 (2)「日常生活の中で出会う情報を批判的に読み解き、多面的に判断することができる」スキルを、マス・メディアの制度的側面についての検討を通じて身につけます。 (3)西欧における「表現の自由」の発達の概要を説明できる。 (4)明治憲法下の「表現の自由」と現行憲法下の「表現の自由」の違いを説明できる。 (5)現行憲法下の「表現の自由」の及ぶ範囲を説明できる。		●		
	CO-M-222	データ解析法	講義	2	2			○		データ解析にまつわる知識は、コミュニケーションおよび人間心理の探究においてデータを収集する際や、先行研究の結果を適切に理解する際に必要不可欠です。本授業では、データを適切に扱い、解析して解釈できるように、データ解析に関する基礎的知識を学ばせます。具体的には、データ解析に関する基礎的知識に関する講義に加え、データ解析の際に広く用いられている統計ソフトウェアを用いた実習を行います。 本授業の内容は、CPにおける実施方針のうち、コミュニケーションに関わる知識と技能を身に付けるための科目であり、具体的にはデータを分析する方法を学び、実践することを通じて対人関係についての理解を深めることに重点を置きます(実施方針3)。	(1)目的に沿った統計手法を選択してデータを分析し、得られた結果を適切に解釈できる。 (2)データ解析に関する基礎的知識を理解できる。 (3)統計ソフトウェアの基本的な使用方法を理解できる。		●		○
	CO-M-282	ウェブデザイン II	講義	2	2			○		この科目ではCPにおける実施方針のうち、文化の表現と発信を目的として、とくにウェブデザインについて学びます(実施方針4) ウェブ制作に必要なCSS(Cascading Style Sheets)を習得し、ウェブサイトの開発・運営を行える知識・技術を身につけます。 なお本授業ではW3Cによる標準化やSEO対策を意識したウェブサイトを制作し、学内サーバで公開します。	(1)CSS(Cascading Style Sheets)を理解し利用したウェブサイトの開発・運営をすることで、情報化する社会の中で一定の役割を果たすことができる。 (2)Web標準化を理解し、規格に準拠したウェブサイトの開発・運営をすることができる。 (3)SEO(Search Engine Optimization)を意識したウェブサイトの開発・運営をすることができる。				●
	CO-M-112	メディア表現演習	演習	☆2	1			○	制作系カリキュラムの基盤科目	この科目ではCPにおける実施方針のうち、文化の表現と発信について学びます(実施方針4)。 作品制作には、アナログとデジタル、コンテンツ制作のためのメディア処理、ヒトの知覚に関する知識が必要不可欠であり、具現化する際には造形力が問われます。コンセプトがどんなに凝っていたとしても、実物の仕上がりがお粗末であれば、コンセプトはとたんに説得力を失ってしまいます。講義とデッサンを通じた演習によって、メディアコミュニケーションに必要な映像・グラフィックデザイン・ウェブデザインに関する構想力と技術力の底上げを目指します。	(1)観察と表現、形と色、グラフィックス、タイポグラフィなど制作に必要な基礎知識について説明できる。 (2)デジタルツールを用いてクリエイティブ作業を行うためのハードウェア、ソフトウェアの基礎知識について説明できる。 (3)対象を見る力、構図を見極める力を養い、画材の特性を知り、絵を完成させることができる。	◎			●
	CO-M-371	グラフィックデザイン演習 II	演習	2	2			○	正しい商品画像の作成	この科目ではCPにおける実施方針のうち、文化の表現と発信について学びます(実施方針4)。 私たちの暮らす現代社会では、ネット環境を中心としたインフラの充実によって、ありとあらゆるものが実物を見ずともオンラインサービスを通じてディスプレイ越しに購入することが可能となりました。消費者は商品情報を画像から得るため、商品写真をより魅力的に正しく伝えることは売り上げやクレームの多寡に直結します。この授業ではインプレットやECサイトでの使用を想定した商品画像の作成を行います。具体的にはカメラ、ライトシェーピング、ブツ撮り、レタッチなどのスキルを身につけます。	(1)情報社会におけるメディアを通じたコミュニケーション手段のひとつとして、ECサイトの果たしている役割について説明することができる。 (2)ブツ撮りに関する知識(カメラの扱い、ライトシェーピング、レタッチなど)と加工技術を習得し、アイテムを正しく魅力的に見せることができるようになる。	◎			●
	CO-M-262	映像演習 I	演習	2	2			○	はじめての映像編集	この科目ではCPにおける実施方針のうち、文化の表現と発信を目的として、とくに動画制作のやり方について学びます(実施方針4)。はじめて動画制作をする学生を対象として、撮影機材の扱い方、映像編集ソフトPremiere Proを活用した編集方法を演習を通じて身につけます。前半はカット編集やテロップの挿入など基本的な映像制作技術を使った紹介動画の作成を、後半ではコマリアニメーションを作成します。できあがった動画はYouTubeへアップロードし限定公開することで、動画の表現と発信まで、その工程を一通り学ぶことができます。	(1)映像制作に使用する機材の扱い方やソフトウェアの知識を身につけ、正しく操作することができる。 (2)人が表現したい内容を的確に表現する構想力とそれを支える映像技術を習得し、短編映像作品をつくることができる。 (3)完成した動画をYouTubeを通じて発信することができる。	◎			●
	CO-M-382	プログラミング演習 II	演習	2	2			○		この科目ではCPにおける実施方針のうち、文化の表現と発信を目的として、とくにプログラミングについて学びます(実施方針4)。 コンピュータ上で動作するアプリケーションを開発するためには、プログラミングについての知識・技術が必要となります。 この授業では、オブジェクト指向を実験を通して学び、アプリケーションの開発を行います。	(1)小規模なプロジェクトを作成することで、情報化する社会の中で一定の役割を果たすことができる。 (2)オブジェクト指向について理解し利用することができる。				●
	GLO-241	アメリカ文化研究 I	講義	2	2			○	人種・階級・ジェンダーから読み解く多様性	本科目は、今日のアメリカ社会において注目を集めている「社会の分断」に焦点を当てて検討していくことを目的とする。アメリカは建国以来、「多様性のなかの統一」を理念として掲げて発展を遂げてきたのだが、各時代において人種・階級・ジェンダーの差異に基づく様々な困難に向き合い(時には目を背けてきた)歴史がある。本科目では、上記テーマに関する文献を読み、報告担当者と受講者間の議論(ディスカッション)を中心とした授業を展開していく。これらの学びを通じて、学科CPにおける実施方針の内、「幅広い教養と国際感覚」の習得を目指す。(実施方針5)。	(1)アメリカ社会における人種・階級・ジェンダーの葛藤について説明できるようになる。 (2)文化的多様性の問題を世界的な問題として意識し、検討することができるようになる。 (3)他国の事情を理解した上で、その理解を自国理解に結び付けて考察することができるようになる。	●			○
	GLO-242	イギリス文化研究 I	講義	2	2			○		英語と深い関係をもつイギリス文化がどのように形成されてきたのかを、数千年のイギリス史の流れのなかで考察する。政治・社会・経済等の動きと密接な関連をもった文化現象を対象とするので、通史的な内容にはならない。また、現代のイギリス文化や社会に限定した講義にもならない。一回毎にトピックを選んで、それを中心に議論を深めていく形をとる。Iは16世紀ごろまで、IIはそれ以降から現代までを範囲とする。 ただし、イギリスに関連する重要な出来事が起きたときは、適時これを取りあげる。これらの学びを通じて、学科CPにおける実施方針の内、「言語にまつわる文化や歴史に関する知識」の習得を目指す。(実施方針6)。	(1)英語と深い関係をもつイギリス文化に対する理解を深める。間接的に西洋世界の文化全般に対しての理解力を得る。文化現象を、歴史的蓄積としてとらえる視点、政治・社会・経済等の動きと関連したものとしてとらえる視点を身につけることができる。				●

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連			
												1.情報社会におけるメディアとコミュニケーション、国際社会における外国人の人々とのコミュニケーション現象に幅広く関心をもつことができる。(知識・理解、態度)	2.日常生活の中で出会う情報を批判的に読み解き、多面的に判断することができる。(思考・判断、技能)	3.科学的な知見を基礎とした他者との円滑なコミュニケーションによって、家庭社会にあっても、地域社会にあっても、企業にあっても、国際化する社会の中で一定の役割を果たすことができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)	4.自分の卒業研究・卒業制作についてコミュニケーション学の観点から説明することができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)
	GLO-113	言語学概論B	講義	2	2			○		様々な言語現象の背後にある規則性、音声、語、文、文章のレベルで、また、言語と心理、社会、文化との関係において、更に、他の言語との比較の観点から概観する。(テキストの各章を通して個々の言語の中にある普遍性を学習し、練習問題に取り組むことで現実に遭遇する様々な言語現象をその普遍性との関連で説明できるように訓練する。具体的には、各週1章ずつ進め、練習問題を宿題として課し、次週解答を配布する。各章末の発展問題から学生の興味に合わせて選択させ期末レポートの課題とする。これらの学びを通じて、学科CPにおける実施方針の内、「英語コミュニケーション能力の育成」を目指す。(実施方針6)	(1) 学生は、テキストを通して言語学の基本的な知識と手法を獲得して、言語現象を科学的に分析できるようになる。国際化する社会において、多様な観点から問題に取り組むことができるようになる。			●	◎
	GLO-234	Advanced English (Speaking)	講義	2	2			○		身近なトピックについて自身の意見を整理し、英語で意見を交換し発表することで、他者の文化や価値観を知り、理解を深めつつ、英語での社会言語的スキルも含めた英語のスピーキング力向上にアプローチします。場にふさわしい適切な言語使用への意識を高めます。グループディスカッション、ペアワーク、プレゼンテーションを行います。これらの学びを通じて、学科CPにおける実施方針の内、「円滑なコミュニケーション能力の習得」を目指す(実施方針5)。	文化・価値観の多様性について学び、それらを踏まえ、自分の考えを英語で話すことができる。 (1) 社会言語的に適切な表現を意識し、使用することができる。 (2) さまざまな文化的価値観や態度について学ぶことで、自己の文化的アイデンティティへの意識を高め、異文化への感受性を高める。	◎		●	
	GLO-221	イギリス文学 I	講義	2	1			○		この授業はCPの実施方針のうち、言語を取り巻く文化や歴史に関する知識および発表技能を身につけることに重点を置いて授業を展開します。(カリキュラムポリシー実施方針6) 今日にいたるまで世界の演劇・文学・舞台芸術等に強い影響を与え続けているW.シェイクスピアを中心に据え、中世から初期近代にいたるイギリス演劇の誕生と発展の過程を学び、代表的な作品を読むことを通じてイギリス演劇の特性に対する理解を深め、鑑賞力を養うことを目的とします。まずはシェイクスピアが登場する前の演劇をめぐる文化的・社会的状況や当時の劇場構造等を学び、次にシェイクスピアが劇作家として活躍し始める頃の演劇状況を学びます。そのうえでシェイクスピアの作品を正確に読み、言語の特性や人物造形、ドラマツルギー等を具体的に考察します。その際、作品がさまざまな時代・地域、特に現代社会の中でどのように受容され、演出されているのか、またそれがどのような相互作用や影響を与えたのかに留意しながら考察を深めていきます。	(1) イギリス演劇の誕生と発展に関する知識を身につけることができる。 (2) シェイクスピアが活躍したころの演劇状況を理解することができる。 (3) シェイクスピア作品を読み、その特性を理解して鑑賞することができる。 (4) シェイクスピア作品の時代や地域を超えた受容について理解することができる。	◎		●	
	GLO-222	アメリカ文学 I	講義	2	1			○	アメリカ文学を通してアメリカ文化とアメリカ史を知る	本授業は広い視野から人間や社会を理解し、国際的に活躍できる人材となることを目指して学ぶものである。アメリカ文学を「アメリカ研究」の立場(アメリカで起きた出来事や文化そして人物)から考察してゆく、興味深い講義です。作家の生没や作品の出版年を暗記するのではなく、作品が生み出された時代とそこに生きた人々の心情、そして出来事から解き明かしていきます。資料として映画化された作品や背景がわかる映像資料も講義では紹介して、理解を深めてもらいます。これらの学びを通じて、学科CPにおける実施方針の内、「言語にまつわる文化や歴史に関する知識」の習得を目指す。(実施方針6)。	(1) アメリカ文学を学際的な視点で、体系的に理解し、それを踏まえてレポートかつ解説ができる。それぞれの時代で生み出された小説が、なぜそこで作家により書かれたかが、アメリカ史の中で理解でき、文章や口頭で説明できることを目標とする。		◎	●	
	CO M-123	コミュニケーション演習Ⅲ	演習	2	2				われわれの日常のコミュニケーションは、小さな対人関係の積み重ねによって構築されている。しかし、われわれはこうした小さな対人関係においても、他者に自身の意図を伝えたり、他者の意図を汲み取ったりすることに困難を覚えることがある。本授業では日常における基本的な対人関係場面を取り上げ、教室においてロールプレイ形式のエクササイズに取り組むという演習形式でそれを体験し、再考するとともに、対人関係に困難をきたす要因を考察し、困難を解決する表現手法を身につけることを目指す。本授業はコミュニケーション学科のカリキュラム・ポリシーのうち、コミュニケーションに関わる技能を身につけることに関連します(実施方針3)。	(1) 他者の心情を汲み取って表現できる。 (2) 自身の意を適切に表現できる。			●		
	CO M-191	デジタル・アーキビスト概論	講義	2	1					コミュニケーション学科のカリキュラム・ポリシーである「メディア・コミュニケーション領域科目には、メディアとコミュニケーションに関わる知識の修得と技能の育成のために、研究法、社会心理学、言語コミュニケーション、マス・コミュニケーション、メディアコミュニケーションに関する科目を配置するとともに、コミュニケーションに必要な構想力と技術力に習熟するために、映像、グラフィックデザイン、ウェブデザイン、プログラミングに関する科目を配置する。」に基づき、文化や歴史をデジタルデータとして収集・保存・活用するデジタル・アーカイブについて学ぶ。デジタル・アーカイブを構築することができる人材になるために、資料の収集から長期保存、短期保存、活用のPDCAサイクルを理解するとともに、実際に取り組まれている事例を具体的に把握し、今後の方向性について考察する。また、位置情報などのメタデータの重要性について理解し、その取り扱い方法についても身につける。	(1) デジタルアーカイブの必要性を語れる。具体的には、デジタルアーカイブの役割を理解し、それを構築するための全体像と個別の問題について把握することができる。				●
	CO M-291	デジタル・アーカイブ論	講義	2	2					本科目は、メディアとコミュニケーションに関する知識修得に関連した科目である。「遺す」をキーワードに、デジタル・アーカイブは様々な領域で今日注目されている。少し前には、公文書管理において「時を貫く」管理の重要性が提言されたが、流れゆく時間の中で何かを遺すことについて考える必要がある。この授業では、デジタル・アーカイブの社会的な役割や実際の機能について掘り下げていく。また、各種のガイドラインを取り上げ、考察する。	(1) 情報社会におけるアーカイブとしてのデジタル・アーカイブを理解し説明できる。 (2) 各種のデジタル・アーカイブについて理解し説明できる。 (3) デジタル・アーカイブに求められる機能を理解し説明できる。 以上の到達により、情報社会におけるメディアとコミュニケーションに関心を持ち、様々な情報を多面的に判断できるようになる。				●
	CO M-292	デジタル・アーカイブ・メディア論	講義	2	2					メディアとコミュニケーションに関する知識の修得と技能の育成のために、デジタル・アーカイブのパーソナル活用に着目し、マスメディアのデジタル・アーカイブが地域と地域資源を見出し、今後の地方創生における役割の重要性について理解する。また、テキストデータ、静止画、動画、音声のアーカイブ化の課題とその解決方法をマイクレーションなどから、コミュニケーションに必要な技術力を習熟して、国立国会図書館のジャパンサーチ、国立映画アーカイブ、NHKアーカイブスなどマス・メディアのデジタル・アーカイブの実践実習を交えて学ぶことができる。	(1) 情報社会におけるメディアとコミュニケーション現象と地域社会が直面している諸問題の関わりなど幅広く関心を持ち、今後のデジタル社会において、人が表現したい内容を支えるデジタル・アーカイブは、地方創生や地域活性化にすることに活用出来る必要と重要性を認識し、地域社会のニーズに応える姿勢を身につけ、その具体的な解決策を提示することのできる人材を養成する。				●

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位選択	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.情報社会におけるメディアとコミュニケーション、国際社会における外国人の人々とのコミュニケーション現象に幅広く関心をもつことができる。(知識・理解、態度)	2.日常生活の中で出会う情報を批判的に読み解き、多面的に判断することができる。(思考・判断、技能)	3.科学的な知見を基礎とした他者との円滑なコミュニケーションによって、家庭にあつても、地域社会にあつても、企業にあつても、情報化、国際化する社会の中で一定の役割を果たすことができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)	4.自分の卒業研究・卒業制作についてコミュニケーション学の観点から説明することができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)	
	CO M-121	コミュニケーション演習 I	演習	☆2		2		○	コミュニケーションを測る化する	現在、コミュニケーションの「測る化」が企業で広がり始めています。例えば、日立製作所は2011年にある開発プロジェクトで測る化に挑戦しました。それはメンバー150人のコミュニケーションを定量的(数字)として捉えることです。プロジェクトが失敗する原因の一つに「コミュニケーションの不備」が挙げられます。その原因を定量的に調査・分析するのが目的でした。上記の事例を参考に、本授業ではコミュニケーションを定量化する方法について学びます。 本授業は、全教員が全授業回を担当します。また、本授業は、カリキュラム・ポリシーのうち、測定を通じてメディアを通じた文化交流を実現する技術の育成に重点を置きます(実施方針4)。	(1)コミュニケーションを定量化する方法について理解する。 (2)実際にコミュニケーションを定量化できる。 (3)定量化したデータをまとめ、レポートとして報告できる。			●		
	CO M-122	コミュニケーション演習 II	演習	☆2		2		○	コミュニケーションに必要な構想力と技術力に習熟することを目的とする。的確なコミュニケーションを図るため、ビジュアルエイド(特にパワーポイント)を用いて、受け手に情報を与えたり、説得するためのプレゼンテーション技法を習得することを目的とする。授業では、デザイン理論に基づいたスライド作成の方法、パブリック・スピーキングの理論に基づいた効果的スピーチ方法を学ぶ。その後、小グループに別れプレゼンテーションの練習を行う。グループで意見交換などを行うことによって、各自が改善点を見つけ適宜修正していく。以上を踏まえて、最終プレゼンテーションを行う。プレゼンテーション技能の習得は、大学での学業のみならず、社会での様々なコミュニケーションの場面において役立つはずである。 2名の教員が授業担当者となっているが、すべての教員が毎回の授業に出席する。この科目は学科のCPにおける実施方針のうち、複雑なコミュニケーション現象に興味を持ち、理解することに重点を置いた授業を展開する(実施方針2)。	情報社会におけるメディアとコミュニケーションに関心をもち、批判的に読み解き、多面的に判断した上で、的確に自分の考えを説明できる技術の習得を目的とする。 (1)デザインの基礎理論に基づいたスライドが作成できる。 (2)パブリック・スピーキングの基礎理論に基づいたスピーチができる。 (3)他者のプレゼンテーションの改善点を見出すことができる。 (4)聴衆を意識したプレゼンテーションができる。				●	◎	
	CO M-231	自己理解の社会心理学	講義	2		2		○	社会心理学領域における「自己」の研究に焦点を当てる。コミュニケーションは、自己と他者によって成り立つものである。この授業では「自己」について、社会心理学領域でどのような問題が、どのような手法で研究されているのかを学ぶことを通じて、自己理解にアプローチする。 本授業の内容は、カリキュラム・ポリシーのうち、社会心理学を通じてメディア、対人関係、異文化についての理解を求めことに重点を置きます(実施方針3)。	(1)授業で扱った概念を、日常生活での具体的な事例と併せて理解できる。 (2)授業で紹介される実験や調査の結果が、何をあらわしているか理解できる。 (3)授業内容について自分の言葉で説明できる。			●	◎		
	CO M-332	コミュニケーションワークショップ	演習	2		3		○	「やさしい日本語」トレーニング	行政や教育現場に於ける移民のための情報提供、知的障害者のための情報提供、ろう者のための情報提供、医療・福祉分野での外国人スタッフのためのコミュニケーションの手段、外国人のための観光ガイドなど様々な分野で使われ始めている「やさしい日本語」の考え方を活用して「分かりやすい書き方、話し方」のトレーニングをします。これらによってコミュニケーションのスペシャリストを目指します。この科目は学科のCPにおける実施方針のうち、メディア、対人関係、異文化についての理解を深めることに重点を置いた授業を展開します(実施方針3)。	「やさしい日本語」を使って、適切な情報を相手に伝えることができる。具体的には以下ようになります。 (1)分かりにくい文章を分かりやすく書き直すことができる。 (2)自分の言いたいことを分かりやすく書くことができる。 (3)分かりにくい内容の文章を分かりやすく話すことができる。 (4)自分の言いたいことを分かりやすく話すことができる。			◎	●	○
	CO M-333	ビジネス・プレゼンテーション	演習	2		3		○	ビジネス場面においては、必要な情報を過不足なく伝達したり、聴衆の意思決定を促すようなプレゼンテーション能力が求められることがある。 本科目では、プレゼンテーションの知識や技能、経験を前提とせず、プレゼンテーションに慣れるための演習を行う。プレゼンテーション(発表)やそれに至るまでの準備を通して、心構えや基礎的な技法の習得、およびそれらの質的な向上を目指してもらいたい。 また本科目では、個人やグループでスピーチやプレゼンテーションを行う機会を多く設けるので、積極的に参加し、この科目から離れた後にも活用できるスキルの基礎を築いてもらいたい。 本授業は、カリキュラム・ポリシーのうち、コミュニケーションに必要な構想力と技術力を身につけることに重点を置く(実施方針4)。	(1)プレゼンテーションでの心構えを理解し、それを意識してプレゼンテーションの準備ができる。 (2)プレゼンテーションの構成や資料のポイントを理解し、それを意識して資料準備ができる。 (3)聴衆の前でも落ち着いてプレゼンテーションを行うことができる。 (4)プレゼンテーション場面での自身の取り組みを適切に振り返ることができる。				●		
	CO M-141	言語学概論A	講義	☆2		1		○	ことばから見るコミュニケーション	人間の行なうすべてのコミュニケーションの中で最も重要かつ特異な位置を占める「言語」について学び、さらに「言語」と「コミュニケーション」の関係について学ぶ。この授業では言語の記号学的・記号論的側面も扱うので、世界を記号として見るデザイン科学(メディア表現)にとっても重要である。さらに、メディア表現はコミュニケーションの一形態であるが故に、実践的なメディア表現にとっても重要な科目である。この科目は学科のCPにおける実施方針のうち、文化交流を実践するための教育に重点を置いた授業を展開します(実施方針5)。 この授業は日本語教育の勉強にも役立ちます。	(1)言語学の基礎概念を理解する。 (2)「言語」と「コミュニケーション」の関係について基礎的な部分を理解する。 (3)「Language Awarenessことばを気にかける」態度とは何かを理解しその態度を身に付ける。	◎		●		○
	CO M-241	言語コミュニケーション論	講義	2		2		○	社会学的側面に焦点化した会話分析入門	会話分析(相互行為分析)の基礎について学ぶ。会話分析は、社会学にルーツを持つ研究の方法論であり、私達が日常生活の中でおこなっている会話=コミュニケーションがどのように成り立っているのか、コミュニケーションの中に感情や考えや人間関係がどのように現れているのかについて明らかにすることができる方法論である。この科目ではとくに社会学的側面に焦点化した会話分析を学ぶ。この科目は学科のCPにおける実施方針のうち、複雑なコミュニケーション現象に興味を持ち、理解することに重点を置いた授業を展開します(実施方針2)。 この授業は日本語教育の勉強にも役立ちます。	(1)会話分析の社会学的側面の基礎を理解することをゴールとする。			○	●	◎
	CO M-242	会話のコミュニケーション論	講義	2		2		○	言語学的側面に焦点化した会話分析入門	会話分析(相互行為分析)の基礎について学ぶ。会話分析は、社会学にルーツを持つ研究の方法論であり、私達が日常生活の中でおこなっている会話=コミュニケーションがどのように成り立っているのか、コミュニケーションの中に感情や考えや人間関係がどのように現れているのかについて明らかにすることができる方法論である。この科目ではとくに言語学的側面に焦点化した会話分析を学ぶ。この科目は学科のCPにおける実施方針のうち、複雑なコミュニケーション現象に興味を持ち、理解することに重点を置いた授業を展開します(実施方針2)。 この授業は日本語教育の勉強にも役立ちます。	(1)会話分析の言語学的側面の基礎を理解することをゴールとする。			○	●	◎

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位選択	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連			
												1.情報社会におけるメディアとコミュニケーション、国際社会における外国の人々とのコミュニケーション現象に幅広く関心をもつことができる。(知識・理解、態度)	2.日常生活の中で出会う情報を批判的に読み解き、多面的に判断することができる。(思考・判断、技能)	3.科学的な知見を基礎とした他者との円滑なコミュニケーションによって、家庭にあっては、地域社会にあっては、企業にあっては、国際化する社会の中で一定の役割を果たすことができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)	4.自分の卒業研究・卒業制作についてコミュニケーション学の観点から説明することができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)
	CO-M-342	言語コミュニケーション発達論	講義	2	2					コミュニケーションの中でよく言語コミュニケーションの発達を学ぶことを通じて、ことばやコミュニケーションについて新たな側面から考える。ここで言う「発達」とは、L.ビゴツキーの述べた意味での「個体発達(個体発生)」、「社会・文化・歴史的発達」、「系統発生的発達(進化)」3つの側面のうちのひとつ、あるいは複数の側面を意味する。この科目は学科のCPにおける実施方針のうち、複雑なコミュニケーション現象に興味を持ち、理解することに重点を置いた授業を展開します(実施方針2)。この授業は日本語教育の勉強にも役立ちます。	(1)言語コミュニケーションという概念を理解している。 (2)L.ビゴツキーの3つの発達という概念を理解している。 (3)具体的な発達の内容を理解している。	◎	●		○
	CO-M-252	社会情報政策論	講義	2	2					カリキュラム・ポリシーにあるように、社会情報政策論は、コミュニケーション学科の学科基本科目につき「日常的に出会う情報を批判的に読み解くための科目」としてメディアコミュニケーション領域に設置されている学科専攻科目です。私たちがインターネットを利用して円滑なコミュニケーションを行うために守るべき最低限の社会の決まり(法的基準と倫理基準)、自分が使用するメディアを適切に管理する際の要点という観点から、この授業では、情報セキュリティと情報倫理について学びます。	(1)「科学的な知見を基礎とした他者との円滑なコミュニケーションによって、家庭にあっては、地域社会にあっては、企業にあっては、国際化する社会の中で一定の役割を果たすことができる」スキルを社会情報政策についての検討を通じて身につけます。 (2)「人間や組織が考え感じたことを伝える側面と、受け取る側面とを分析的に探求する」スキルを社会情報政策についての検討を通じて身につけます。				●
	CO-M-254	マス・コミュニケーション理論	講義	2	2					メディアとコミュニケーションに関する知識の修得に関わる科目です。1年次配当科目マス・コミュニケーション概論で学んだことを基礎として、より深く学ぶ科目です。特にマス・メディアの受け手研究、効果研究について、卒業研究のテーマにすることを視野に入れつつ、概説していきます。	(1)マス・コミュニケーションの機能と逆機能を列記し、説明できる。 (2)マス・コミュニケーション受け手研究の例を列記し、説明できる。 (3)マス・コミュニケーション効果研究の例を列記し、説明できる。	◎		●	
	CO-M-351	ジャーナリズム論	講義	2	2					ジャーナリズム研究とマス・コミュニケーション研究とは密接な関係がありますが、違いも見られます。先ずはその差異を理解することからはじめます。報道の媒体として、従来のマス・メディアに加え、インターネットも重要な役割を果たしています。この授業では、ジャーナリズムの現状の問題点を理解し、どのような機能と逆機能を果たしているのか、そして今後のジャーナリズムの行方について、日々の報道などを例にして、概説します。CPにおける実施方針のうち、メディアに関する理解を深めるための科目です(実施方針3)。	(1)ジャーナリズムの現状の問題点を例示できる。 (2)ジャーナリズムの機能および逆機能を記述できる。 (3)デジタルジャーナリズムの現状について説明できる。	◎		●	
	CO-M-261	映像概論	講義	2	2					カメラ・オブスクラが絵を描くための装置として活用されてから500年、リュミエール兄弟がシネマグラフで像を動かしてみせてから120年、『映像』はヒトの創造力に働きかけ、日常では得られなかった新たな視覚体験をもたらしました。この科目では主に2つの視点から映像を論じていきます。ひとつは写真史から映像史をなぞることによって見えてくる新しい映像メディアの誕生。もうひとつはヒトの認知の仕組みを利用した表現手法についてである。講義を通してコミュニケーションに必要な映像に関する構想力と技術力を底上げします。CPにおける実施方針のうち、文化の表現と発信について学びます(実施方針4)。	(1)認知科学の知識と映像の歴史と原理を理解し、実制作においてもそれらを活用した制作を行うことができる。 (2)情報社会における映像メディアが果たすコミュニケーションの役割を理解し論じることができる。	○			●
	CO-M-361	映像演習Ⅱ	演習	2	2				拡張する映像メディア	映像演習Ⅱは、映像演習Ⅰの発展的な学習となります。課題では、近年ライブ演出等で活用されている透過型スクリーンを用い、そのメディアの特性を踏まえた映像コンテンツの制作を行います。映像制作において使用するアプリケーションに制限は設けません。完成した映像は実際に縦2m×横5mの透過型スクリーンに投影し上映会を行います。いわゆる液晶ディスプレイとワンセットではない映像表現を用いることによって、先進的な映像体験と、それを通すことによるのみ伝わる情報があることを体験します。演習を通じてメディアコミュニケーションに必要な映像に関する構想力と技術力を養い、CPにおける実施方針のうち、文化の表現と発信について学びます(実施方針4)。	(1)多様な映像制作ソフトの特徴を理解し、人が表現したい内容を的確に表現する構想力とそれを支えるグラフィック技術と映像技術を身につけ、一本の短編映像作品を完成させることができる。 (2)映像を制作する際に鑑賞者としての視点を持ち、知識を元にした分析によって作品の制作意図を言語化することができる。	◎			●
	CO-M-271	デザイン心理学	講義	2	2					デザインに限らず人の行うこと、示すことは人によって観察され、評価されます。このユーザー制約があるために、あらゆるデザイン、ユーザーインターフェースは人の基本的な性質、心理学的特性によって方向づけられ、決定されています。この心理学的特性を系統立てて学び、主にノーマンやギブソンの考え方を通じて、あらゆるデザインやインターフェースを科学的に分析することの意味、有用性を考えていきます。本授業は、カリキュラム・ポリシーのうち、デザインを通じて文化交流を実現するための知識と技術の育成に重点を置いています(実施方針4)。	(1)人間社会に溢れているデザイン、ユーザーインターフェースを心理学という一つの科学的視点から分析できるようになる。 (2)デザインやユーザーインターフェースについて、科学的に考察できるようになる。			◎	●
	CO-M-272	グラフィックデザイン演習Ⅰ	演習	2	2				はじめてのエディトリアルデザイン	この科目ではCPにおける実施方針のうち、文化の表現と発信について学びます(実施方針4)。新聞・雑誌・パンフレット・書籍など複数のページによって構成される媒体をデザインすることをエディトリアルデザイン(editorial design)といいます。本授業ではグループで取材対象を決めインタビューを行い、デザインソフト(Photoshop, Illustrator)を用いてイメージに沿って内容をまとめあげます。小冊子でのアウトプットを通してコミュニケーションに必要なグラフィックデザインに関する構想力と技術力を身につけます。	(1)情報社会におけるメディアを通じたコミュニケーション手段として、エディトリアルデザインの概要とその利点について説明することができる。 (2)Photoshop, Illustratorを使用して誌面の作成を実践することができる。	◎			●
	CO-M-181	ウェブデザインⅠ	講義	☆2	1					この科目ではCPにおける実施方針のうち、文化の表現と発信を目的として、とくにウェブデザインについて学びます(実施方針4)。ウェブ制作に必要なHTMLを習得し、ウェブサイトの開発・運営を行える知識・技術を身につけます。さらに教員が作成した仕様書に則ったウェブサイトを制作します。	(1)ウェブデザインを理解しウェブサイトの開発・運営をすることで、情報化する社会の中で一定の役割を果たすことができる。 (2)HTMLを理解し仕様書通りのウェブサイトを開発することができる。				●
	CO-M-281	マルチメディア演習	演習	2	2					この科目ではCPにおける実施方針のうち、文化の表現と発信を目的として、とくにプログラミングについて学びます(実施方針4)。VR(Virtual Reality)機器について学び、認知特性(視覚・聴覚・可能であれば触覚)に則ったVRコンテンツを開発します。	(1)認知特性に則ったVRコンテンツの開発ができ、情報化する社会の中で一定の役割を果たすことができる。 (2)VR用のヘッドマウントディスプレイ(HMD)の基本操作ができる。				●

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位選択	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連			
												1.情報社会におけるメディアとコミュニケーション、国際社会における外国の人々とのコミュニケーション現象に幅広く関心をもつことができる。(知識・理解、態度)	2.日常生活の中で出会う情報を批判的に読み解き、多面的に判断することができる。(思考・判断、技能)	3.科学的な知見を基礎とした他者との円滑なコミュニケーションによって、家庭にあつても、地域社会にあつても、企業にあつても、情報化、国際化する社会の中で一定の役割を果たすことができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)	4.自分の卒業研究・卒業制作についてコミュニケーション学の観点から説明することができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)
	CO-M-283	コンピュータ概論	講義	2	2	○				この科目ではCPにおける実施方針のうち、文化の表現と発信を目的として、とくにコンピュータが我々の生活に与える影響について学び、文化の交流を実現する技術の光と影について考えます(実施方針4)。ICTが私たちの生活をどのように支え、どのような役割を果たし、今後どのように発展していくのか、について学びます。	(1) 今後、技術が発展することで、政治・経済・社会にどのような影響を与え、どのような課題を有する、について説明することができる。 (2) 私たちの生活に浸透しているICTの事例について説明することができる。	◎	●		
	CO-M-284	プログラミング演習 I	演習	2	2	○				この科目ではCPにおける実施方針のうち、文化の表現と発信を目的として、とくにプログラミングについて学びます(実施方針4)。コンピュータ上で動作するアプリケーションを開発するためには、プログラミングについての知識・技術が必要となります。この授業では、プログラミング言語を用いて、変数や入出力、演算式、制御構文などの基本を、実体験を通して習得します。	(1) 教員に指示に沿って基本的なプログラムを組み、情報化する社会の中で一定の役割を果たすことができる。 (2) 変数と演算子について理解し利用することができる。 (3) 制御構文や関数について理解し利用することができる。			●	
	GLO-112	英語音声学	講義	☆2	1	○				音声学の基本分野である調音音声学に重点を置き、発音練習を交えながら、英語音声学の理論を学んでいく。具体的には、個別音の発音に使われる調音器官やその使い方、さまざまな音変化の現象、音素の考え方、強勢・リズム・イントネーションなどについて学習する。また、理解を進めるためには、日本語音声学の知識を有することも有効であると考えられることから、日本語の音素との類似点・相違点についても言及していく。本科目は、コミュニケーション学科カリキュラムポリシー編成方針の6.に関連し、特に言語の構造に関する知識の養成に重点を置く。	(1) 音声の発音に用いられる調音器官について説明することができる。 (2) 英語の個別音の特徴について説明することができる。 (3) 発音記号が示す音を正確に発音することができる。	●			
	GLO-114	英語史	講義	2	2	○				中学校時代、英語の複数形には「-s」を付けなければならないと学んだあとで、childの複数形がchildrenに、footの複数形がfeetになるのを不思議に思いませんか？小学校でローマ字を勉強した後で「name」を見ると「ナメ」と言ってしまうようですが、なぜ「ネーム」と発音するのでしょうか？本講義では、専門的知識や人間に関する基礎的理解の修得を目指すカリキュラム・ポリシーにもとづき、英語の歴史を振り返ることで、現代の英語の「なぜ？」を考え理解します。これらの学びを通じて、学科CPにおける実施方針の内、「英語コミュニケーション能力の育成」を目指す。(実施方針6)。	(1) 前提となる英文法の基礎的な知識を理解している。 (2) 英語や英国の歴史的背景を理解している。 (3) 上の①・②の知識から、現代英語に対する認識を深めて考察し、説明できる。			●	
	GLO-211	現代英文法	講義	2	2	○				英文法は日本の中学校・高校を卒業した方なら必ず勉強した項目かと思われます。これまで学習した煩雑とも思えてしまふ英文法を改めて振り返り整理することで、体系的な理解をはかります。くわえて、日英語を比較したり、コア理論の知見を借りることで、英文法の知識を実践的な場面に応用し、英語能力向上の支援を行います。これらの学びを通じて、学科CPにおける実施方針の内、「英語コミュニケーション能力の育成」を目指します(実施方針6)。	(1) 前提となる英文法の基礎的な知識を理解している。 (2) 英文法や文法とはなにかを正確に述べることができる。 (3) 未知の英語表現に出会っても、既習の内容を応用して理解できる。 (4) 未知の英語表現に出会っても、既習の内容を応用して体系化を図れる。			●	
	GLO-212	英語コミュニケーション論	講義	2	2	○				コミュニケーションとは言語などによる意志・感情・情報の伝達であると考えられる。そのプロセスは話し手が何らかの意図を込めて言葉を発し、聞き手が状況の中でその発話を解釈するというものである。本授業では、このコミュニケーションを語用論の見地から考察し、日ごろなげなく行っているコミュニケーションの本質を探っていく。本科目はコミュニケーション学科カリキュラム・ポリシー編成方針の6.に関連し、特に英語運用技能の養成に重点を置く。	(1) 発話や会話に関する代表的な理論について説明することができる。 (2) 発話の中に入められた話し手の意図を、文脈を参照しながら、正しく解釈することができる。	●			
	GLO-214	応用言語学概論	講義	2	2	○				本講義では、応用言語学の領域の一つである第二言語習得論と、言語習得に影響を与える母語や情意(感情や意志)要因について紹介する。また、経験やイメージではなく科学的なアプローチで言語の効果的学習方法やこれからの日本の英語教育の方向性を考えたい。 ※これらの学びを通じて、学科CPにおける実施方針の内、「英語コミュニケーション能力の育成」を目指す。(実施方針6)。	(1) 第二言語習得の基礎について説明できる。 (2) 第二言語学習における母語の影響について基本的な説明ができる。 (3) 第二言語習得における情意要因について基本的な説明ができる。 (4) 効果的な言語学習法や日本の英語教育について意見を述べることができる。 (5) ローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題を捉え、その問題解決に真摯に取り組むことができる。				●
	GLO-122	英米文学史	講義	2	1	○				この授業は、CP実施方針のうち、言語を取り巻く文化や歴史に関する知識および発表技能を身につけることに重点をおいて授業を展開します。(カリキュラムポリシー実施方針6)この授業では、中世から20世紀までの英米文学の流れを、詩・演劇・小説の三つのジャンルにおいて、なるべくたくさんの方に触れながら学びます。詩や演劇作品では実際に音読をして詩のリズムを体感したり、当時の上演状況などを考えながら作品を読みます。18世紀以降の小説では、道徳観、恋愛・結婚、自然と文明など現代を生きる私たちにも身近に感じられる主題を中心に作品を読み、英米文学への理解を深め、鑑賞力を養います。豊かな英米文学の世界をまずは楽しみながら、作品の中に垣間見える当時の風俗や習慣等の歴史的背景や社会的・政治的問題を理解するとともに、英米文学に関する基礎的な知識を身につけます。	(1) 中世から20世紀にいたる英米文学のおおまかな流れを理解することができる。 (2) 英米文学を取り巻く歴史的背景や社会的・政治的問題を理解することができる。 (3) 英米文学への理解を深め、鑑賞することができる。	●			
	GLO-123	児童文学	講義	2	2	○				この授業は、CP実施方針のうち、言語を取り巻く文化や歴史に関する知識および発表技能を身につけることに重点をおいて授業を展開します。(カリキュラムポリシー実施方針6)この授業では英語圏の児童文学を中心に据え、その歴史的背景や社会的意義、文化的位置づけを学び、代表的な作品を読むことを通じて、英語圏児童文学の特性に対する理解を深め、鑑賞力を養います。まずは児童文学を含む英語圏文学・文化の成り立ちを理解し、次に19世紀から21世紀の代表的児童文学作品を取り上げ、歴史的・文化的背景を踏まえて丁寧に読み、児童文学の変遷と子供観の変容を考察します。	(1) 児童文学を含む英語圏文学・文化の成り立ちを理解することができる。 (2) 英語圏の児童文学の歴史的背景や社会的意義を理解することができる。 (3) 英語圏の児童文学の特性を理解して、鑑賞することができる。 (4) 英語圏の児童文学の変遷と子供観の変容を理解することができる。	●			

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位選択	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)			
												1.情報社会におけるメディアとコミュニケーション、国際社会における外国の人々とのコミュニケーション現象に幅広く関心をもつことができる。(知識・理解、態度)	2.日常生活の中で出会う情報を批判的に読み解き、多面的に判断することができる。(思考・判断、技能)	3.科学的な知見を基礎とした他者との円滑なコミュニケーションによって、家庭社会にあっても、地域社会にあっても、企業にあっても、情報化、国際化する社会の中で一定の役割を果たすことができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)	4.自分の卒業研究・卒業制作についてコミュニケーション学の観点から説明することができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)
	GLO-321	イギリス文学 II	講義	2		2		○		この授業はCPの実施方針のうち、言語を取り巻く文化や歴史に関する知識および発表技能を身につけることに重点をおいて授業を展開します。(カリキュラムポリシー実施方針6)今日にいたるまで世界の演劇・文学・舞台芸術等に強い影響を与え続けているW.シェイクスピアを中心に据え、中世から初期近代にいたるイギリス演劇の誕生と発展の過程を学び、代表的な作品を読むことを通じてイギリス演劇の特性に対する理解を深め、鑑賞力を養うことを目的とします。まずはシェイクスピアが登場する前の演劇をめぐる文化的・社会的状況や当時の劇場構造等を学び、次にシェイクスピアが劇作家として活躍し始める頃の演劇状況を学びます。そのうえでシェイクスピアの作品を正確に読み、言語の特性や人物造形、ドラマツルギー等を具体的に考察します。その際、作品がさまざまな時代・地域、特に現代社会の中でどのように受容され、演出されているのか、またそれがどのような相互作用や影響を与えたのかに留意しながら考察を深めていきます。	(1)イギリス演劇の誕生と発展に関する知識を身につけることができる。 (2)シェイクスピアが活躍したころの演劇状況を理解することができる。 (3)シェイクスピア作品を読み、その特性を理解して鑑賞することができる。 (4)シェイクスピア作品の時代や地域を超えた受容について理解することができる。	◎	●		
	GLO-322	アメリカ文学 II	講義	2		2		○		本授業は広い視野から人間や社会を理解し、国際的に活躍できる人材となることを目指して学ぶものである。多民族から構成される国アメリカ。だから文学も当然のこと、それぞれの民族やその文化、宗教などが影響した作品が書かれている。今回はアフリカ系、ユダヤ系、先住民、日系のアメリカ文学を扱う。まずアメリカでのそれぞれの歴史的背景を文学史と合わせて学び、その後、主たる作家と共に周辺作家、同傾向の作家や作品に触れて行く。その際、原書も一部配布し英文も味わってもらい、また分野の終わりの回には文学作品で映像化されたものを鑑賞してもらいレポートしてもらう。これらの学びを通じて、学科CPにおける実施方針の内、「言語を取り巻く文化や歴史に関する知識」の習得を目指す。(実施方針6)。	(1)文学史、文学作品、映像資料を通して多民族国家アメリカが理解できる。また英語コミュニケーションが、単に英語を話すだけでなく、また文化の違いを学ぶだけが異文化理解でなく、民族や宗教そして文化なども知識として重要であることが理解できることを目標とする。			●	
	GLO-136	Pronunciation Training I	演習	2		2		○		Suprasegmental aspects of pronunciation Intelligibleな(通じる)英語の発音を身につけるために、リズム・イントネーション・連結・同化など、英語特有の音声現象を学びます。発音記号も扱いながら、日英両言語の音声上の相違や発音上の問題点を解説しつつ、主に句や文、文より大きなレベルの発音の訓練を行います。円滑なコミュニケーションを図るために必要な知識や技能を身につける科目です(カリキュラム・ポリシー)。 ・ペアワーク、グループワークでも練習を行います。 感染防止の工夫として個別のコーチングはGoogle Meetを使用して行います。 これらの学びを通じて、学科CPにおける実施方針の内、「実践的な英語コミュニケーション能力」の習得を目指します(実施方針6)。	(1)自分の英語発音をモニターしながら、英語らしい強勢やリズムで英語を話すことができる。 (2)自分の表現したいことが伝わるイントネーションで英語を話すことができる。 (3)発音記号を参照しながら発音することができる。	●			
	GLO-137	Pronunciation Training II	演習	2		2		○		一般的な音声学の理論に基づき、受講生の英語発音技術の向上をはかることを第一の目的とします。発音記号を紹介し、日英両言語の音声上の相違や発音上の問題点を解説しつつ、母音および子音の練習を通して英語の発音訓練(矯正)を行います。 これらの学びを通じて、学科CPにおける実施方針の内、「実践的な英語コミュニケーション能力」の習得を目指します。(実施方針6)。	発声法、子音、母音を英語母語話者のそれとできるだけ近づけ、いわゆる「カタカナ的な」発音を英語として通じる発音に近づけることを目標とします。 (1)英語の基本的な発音方法と発音記号を理解し、一音一音を正しく発音できる。 (2)語句レベルで正しい発音ができる。 (3)語句が文に入っても正しい発音ができる。	●	◎		
	GLO-138	時事英語 I	演習	2		2		○		This course takes a content-based approach to preparing students to understand and discuss relevant current events in the world. By using English primarily as a tool for communication, students will explore Japan's relationship with the global community through themes related to the Sustainable Development Goals (SDGs).  This class is conducted in accordance with the Tokiwa University Department of Communication Curriculum Policy (Section 5).	(1)Students will be able to understand, form opinions on, and participate in English-language discussions about important current global issues (specifically issues related to the SDGs).			●	
	GLO-232	時事英語 II	演習	2		2		○		This course takes a content-based approach to preparing students to understand and discuss relevant current events in the media. By using English primarily as a tool for communication, students will explore Japan's relationship with the global community across themes covering business, social issues, culture, and technology, among others.  This class is conducted in accordance with the Tokiwa University Department of Communication Curriculum Policy (Section 5).	(1)Students will be able to understand, form opinions on, and participate in English-language discussions about printouts and authentic contemporary news articles relevant to them.			●	
	GLO-233	Advanced English (Listening)	講義	2		2		○		比較的まとまった量の文章を聞きながら、リスニング能力を高めると共に、言語知識を増強することを目的とする。リスニングは受動的な活動だと考えられがちだが、文脈や背景知識を利用しながら、聞き取れなかった部分を補完したり、次の展開を予測しながら聞くことが必要である。授業ではこのプロセスを実現しようとするときに、日本人英語学習者が直面する問題に重点を置きながら練習を重ねていく。本科目はコミュニケーション学科カリキュラム・ポリシーのうち、特に英語運用技能の養成に重点を置く(実施方針6)。	(1)まとまった量の文章を聞いたときに、文脈や背景知識を利用して、その内容を理解することができる。 (2)英語特有の音聞き分けたり、音の変化を聞き取ることができる。	●			
	GLO-235	Advanced English (Reading)	講義	2		3・2		○		読む過程に注意を向け、英語で書かれた文章を読み、課題に取り組みます。要約したり内容についての自分の意見を話すなどの一歩踏み込んだ活動を行います。また、語彙力(特にアカデミックなもの)を高めるための課題にも取り組みます。教室外での多読とReading Skills向上のための課題への取り組みは必須です。 これまでに履修した授業で培った英語力をさらに向上させる授業です。英語表現演習 I、II、III、IVが履修済みであることを前提に授業を行います。 これらの学びを通じて、学科CPにおける実施方針の内、「実践的な英語コミュニケーション能力」の習得を目指します。(実施方針6)。	(1)Acquiring good reading habits and skills, and becoming a more fluent (faster) reader (2)Acquiring learning strategies and study methods for independent vocabulary learning (3)Developing skills and strategies for identifying and interpreting ideas and information (4)Raising awareness of reading and thinking processes (5)Formulating and articulating ideas more precisely and acquire new ways of talking and thinking about a text (6)Building confidence for dealing with university level reading requirements	●	◎		
	GLO-236	Advanced English (Writing)	講義	2		3・2		○		さまざまな場面(日常生活、ビジネス、大学生活など)で書くことが想定される文章の作成を通して、総合的な英語力の強化を図る。また、Eメール、パラグラフ、エッセイといった多様な種類のライティングについて、その特徴やルールを学び、目的に合わせて効果的な文章を書く練習を行う。本科目はコミュニケーション学科カリキュラム・ポリシー実施方針の6.に関連し、特に英語運用技能の養成に重点を置く。	(1)場面や目的に応じて、適切な形式で文章を書くことができる。 (2)自分の伝えたい内容を整理して、読み手が理解できるように書くことができる。	●			



授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)			
											1.情報社会におけるメディアとコミュニケーション、国際社会における外国の人々とのコミュニケーション現象に幅広く関心をもつことができる。(知識・理解、態度)	2.日常生活の中で出会う情報を批判的に読み解き、多面的に判断することができる。(思考・判断、技能)	3.科学的な知見を基礎とした他者との円滑なコミュニケーションによって、家庭にあっては、地域社会にあっては、企業にあっては、国際化する社会の中で一定の役割を果たすことができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)	4.自分の卒業研究・卒業制作についてコミュニケーション学の観点から説明することができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)
	GLO-237	Presentation in English	演習	2	3・2		○		英語による理論的・効果的な口頭発表を行うための技術を育成する。また、発表に対しての適切な質問や応答の技術の向上を図る。ペアワークやグループワークなどの言語活動を行い、題材に対する理解を深めたり質疑応答に必要な技術を養成する。 本科目はコミュニケーション学科カリキュラム・ポリシー実施方針6.に関連し、特に英語運用技能の養成に重点を置く。	(1)プレゼンテーションの基本構造に基づいてプレゼンテーション原稿を作成することができる。 (2)聴衆が理解できるスピードと的確な英語の発音でプレゼンテーションを行うことができる。 (3)聴衆の理解の助けとなるような提示資料を作成することができる。 (4)聴衆としての的確な質問をすることができる。	●	◎		
	GLO-331	Academic Reading	演習	2	2		○		コミュニケーションや、科学、言語などをテーマにした文章を読み、専門的分野の文献を読解する力を養成することを狙います。授業で扱う文章は、学術的(アカデミック)な語彙が豊富に含まれており、それら語彙の根本的な意味を深く追求しながら精読します。 本科目はコミュニケーション学科カリキュラム・ポリシー実施方針の6.に関連し、特に英語運用技能の養成に重点を置く。	(1)学術的な英文を読み解き、より深く理解することができる。 (2)学術的な英文を読む際の方略を活用することができる。 (3)学術的な語彙を強化するための方略を活用することができる。				●
	GLO-332	Academic Writing	演習	2	2		○		アカデミック・ライティングとは、課題レポートや卒業論文のような学術的文章を書く技術のことを意味する。そこには、作文や感想文とは違った文章構造やスタイルがあり、書き手はそれらに従って書くことが求められる。この授業では、アカデミック・ライティングのルールを学びながら、実際に学術的な文章を作成していく。 本科目はコミュニケーション学科カリキュラム・ポリシー実施方針の6.に関連し、特に英語運用技能の養成に重点を置く。	(1)アカデミック・ライティングの基本的な特徴やルールについて説明することができる。 (2)アカデミック・ライティングのルールに従って、学術的な文章を書くことができる。				●
	GLO-333	Business Writing	講義	2	2		○		In this course, students will develop practical business writing skills in English. The activities will include writing email messages and other correspondence for business communication. The focus will be on writing mechanics, grammar, and common phrases/vocabulary used for everyday business writing.  Through this course, students will improve their basic English writing skills and build confidence in their ability to produce professional business correspondence.  This class is conducted in accordance with the Tokiwa University Department of Communication Curriculum Policy (Section 5).	(1) Students will be able to write clear and effective business correspondence in a variety of formats for different business situations. Students will gain experience in business writing for practical application in future jobs.		●		
	GLO-341	アメリカ文化研究 II	講義	2	2		○	映画で読み解くステレオタイプ	この授業では、アメリカ文化研究の一分野として、「映画研究」に注目する。具体的には、アメリカ社会における「他者」へのステレオタイプの形成を学び、実際にいくつかの映画を分析していく。また、この授業では、学生の主体的参加を前提としており、口頭発表やディスカッションなどのアクティブラーニングを積極的に実施していく。これらの学びを通じて、学科CPにおける実施方針の内、「言語を取り巻く文化や歴史に関する知識」の習得を目指す。(実施方針6)。	(1)アメリカ映画に見られる「他者」に対するステレオタイプについて説明できるようになる。 (2)映画研究の手法について理解できるようになる。 (3)ディスカッションや口頭発表などの手法を身に付け、相手に分かり易く説明することができるようになる。		◎	●	
	GLO-342	イギリス文化研究 II	講義	2	2		○		英語と深い関係をもつイギリス文化がどのように形成されてきたのかを、数千年のイギリス史の流れのなかで考察する。政治・社会・経済等の動きと密接な関連をもった文化事象を対象とするので、通史的な内容にはならない。また、現代のイギリス文化や社会に限定した講義にもならない。一回毎にトピックを選んで、それを中心に議論を深めていく形をとる。Iは16世紀ごろまで、IIはそれ以降から現代までを範囲とする。 ただし、イギリスに関連する重要な出来事が起きたときは、適時これを取りあげる。これらの学びを通じて、学科CPにおける実施方針の内、「言語を取り巻く文化や歴史に関する知識」の習得を目指す。(実施方針6)。	(1)英語と深い関係をもつイギリス文化に対する理解を深める。間接的に西洋世界の文化全般に対する理解力を得る。文化事象を、歴史的蓄積としてとらえる視点、政治・社会・経済等の動きと関連したものとしてとらえる視点を身につけることができる。				●